

決算説明会

2024年3月期

ミネベアミツミ株式会社

2024年5月10日

1. 業績の説明

2. 経営方針と事業戦略

業績の説明

取締役 社長執行役員 COO & CFO
吉田 勝彦

売上高は過去最高 (12期連続増収)

(百万円)	2023年3月期		前期比 伸び率	2024年3月期 通期	
	通期 ※	通期 ※		2月予想	達成率
売上高	1,292,203	1,402,127	+8.5%	1,400,000	100.2%
営業利益	97,530	73,536	-24.6%	70,000	105.1%
税引前利益	92,128	75,545	-18.0%	70,000	107.9%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	73,152	54,035	-26.1%	49,000	110.3%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	178.23	133.05	-25.3%	120.65	110.3%

為替レート	2023年3月期 通期	2024年3月期 通期
US\$	134.19円	143.31円
ユーロ	139.90円	155.18円
タイバーツ	3.82円	4.08円
人民元	19.68円	20.03円

※本多通信工業、ミネベアコネク、およびミネベア アクセサリーソリューションズのPPAに伴い、前期および今期の通期・四半期の数値を遡及修正。以降のページでは修正後の数値を使用。

4Qは売上高、営業利益とも修正後の計画達成

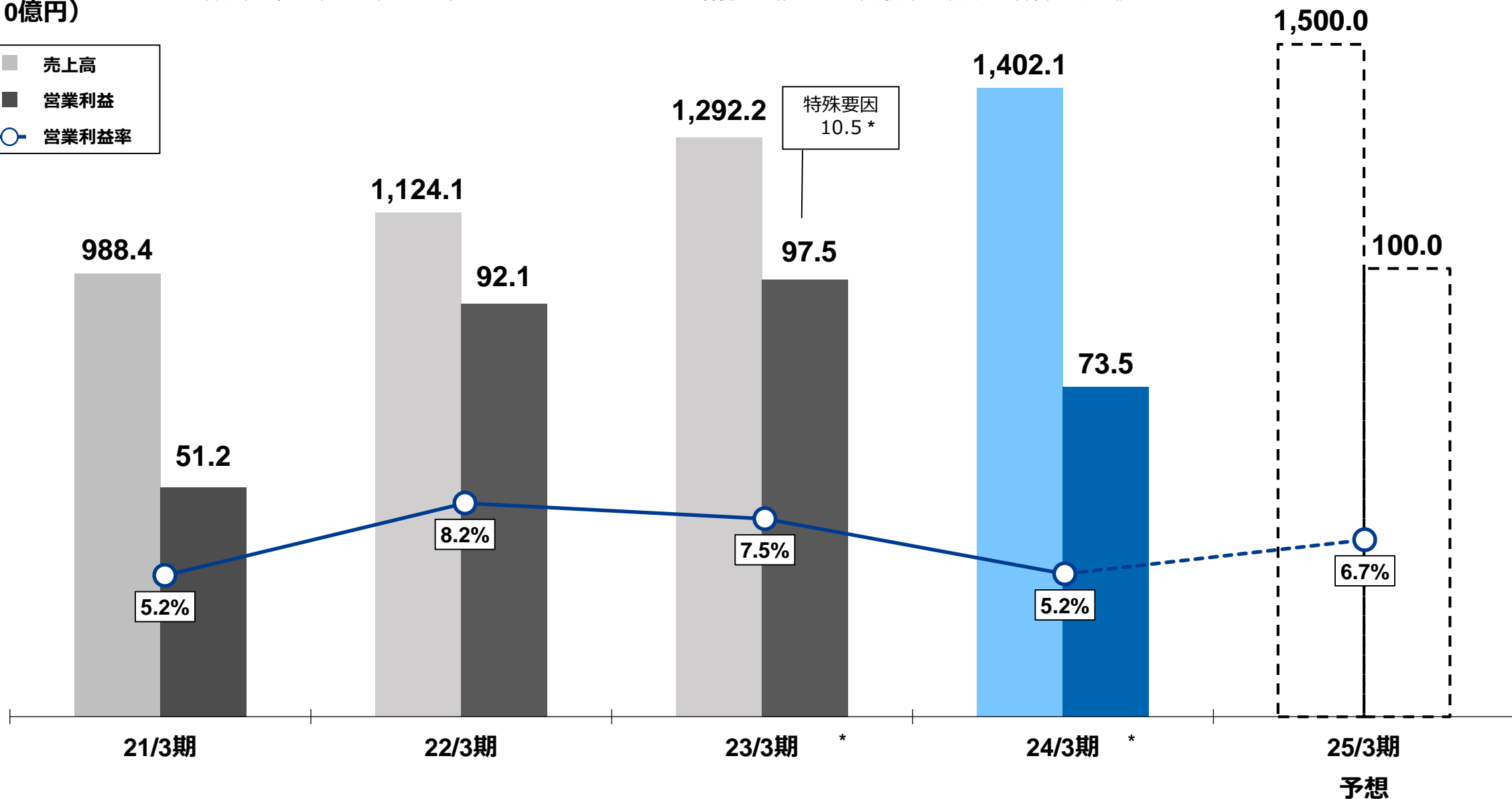
(百万円)	2023年3月期	2024年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	4Q	3Q	4Q		
売上高	339,718	381,207	348,803	+2.7%	-8.5%
営業利益	31,449	24,704	20,342	-35.3%	-17.7%
税引前利益	30,207	21,414	22,602	-25.2%	+5.5%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	30,125	15,212	18,327	-39.2%	+20.5%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	73.39	37.62	45.32	-38.2%	+20.5%

為替レート	2023年3月期 4Q	2024年3月期 3Q	2024年3月期 4Q
US\$	132.73円	149.09円	146.76円
ユーロ	141.94円	159.31円	159.48円
タイバーツ	3.91円	4.15円	4.15円
人民元	19.32円	20.47円	20.43円

売上高、営業利益、営業利益率

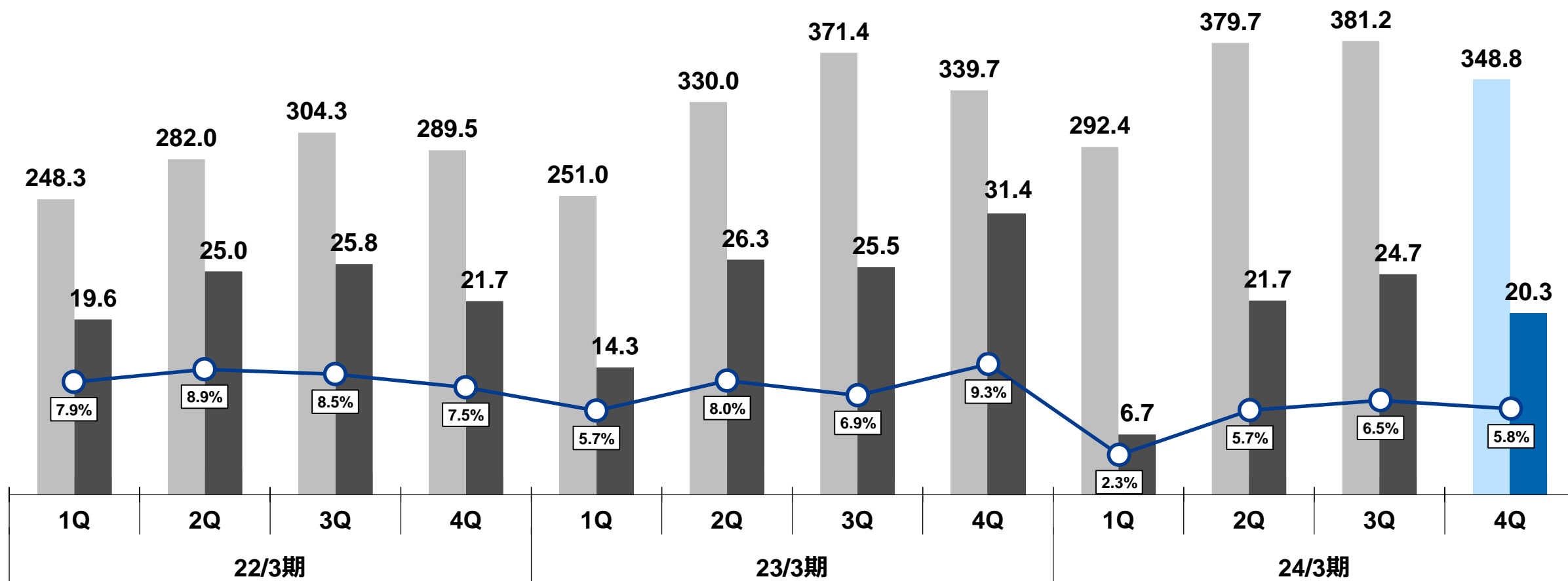
*本多通信工業・ミネベアコネクテッド・ミネベア アクセソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の営業利益を遡及修正

(10億円)



売上高、営業利益、営業利益率

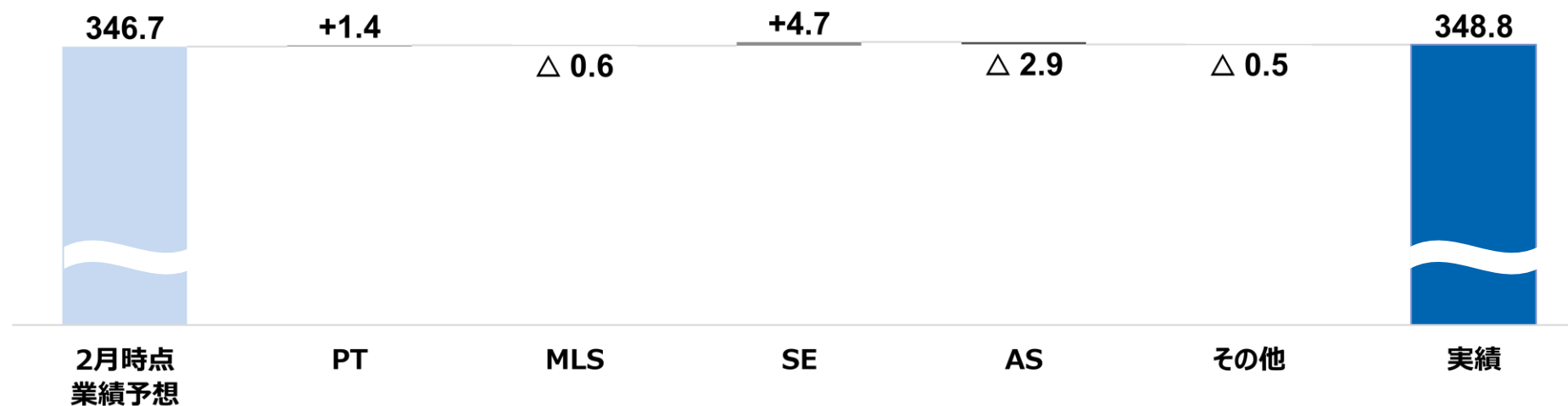
(10億円)



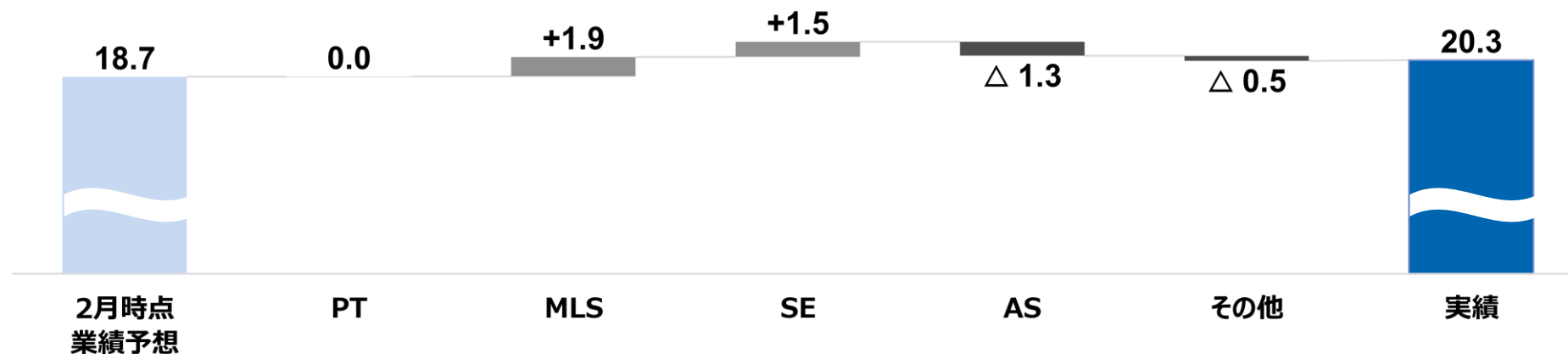
4Q実績 2月時点業績予想からの差異

(10億円)

売上高

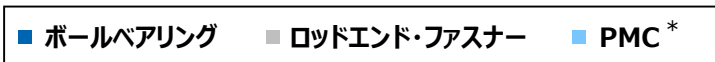


営業利益

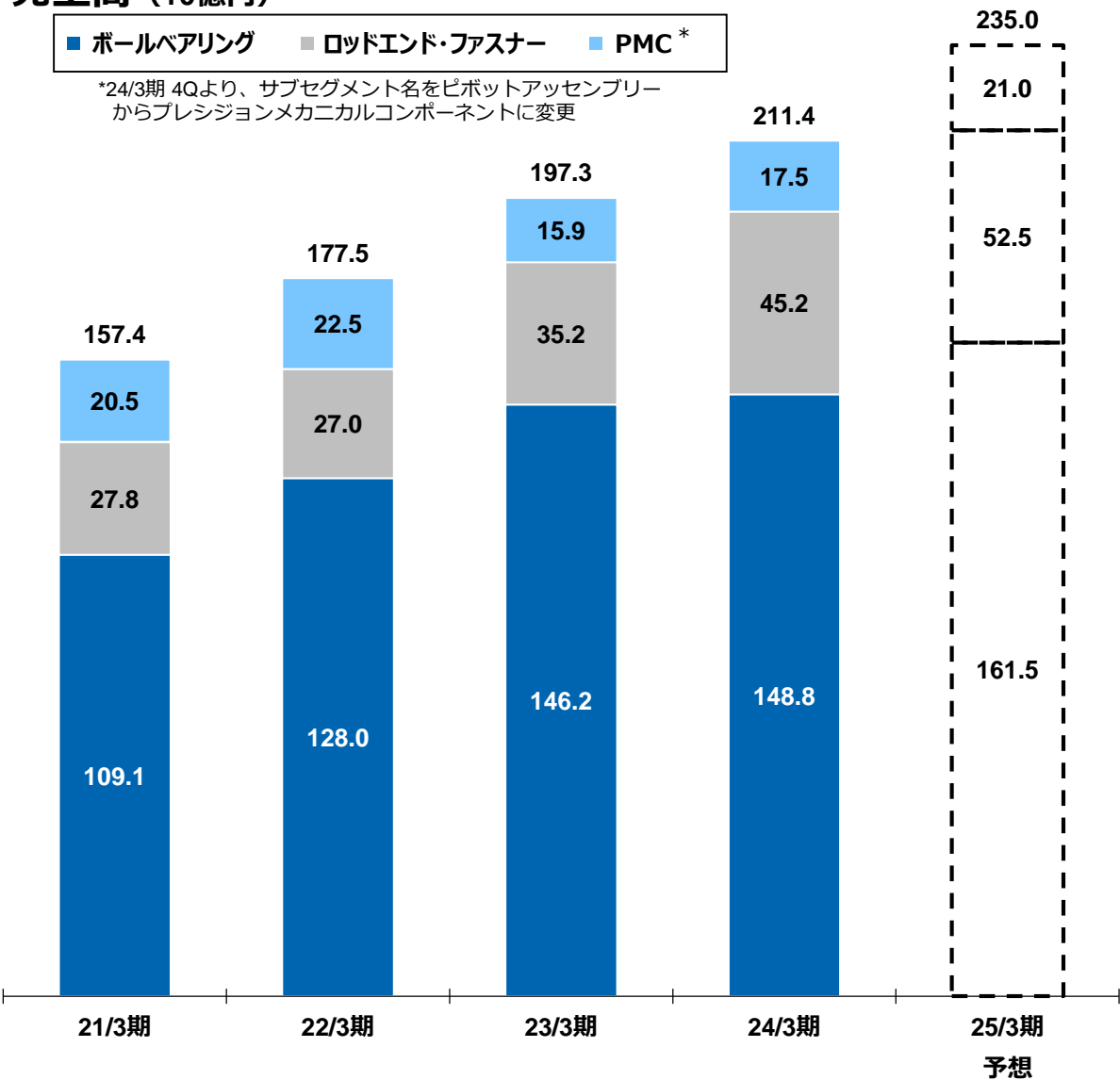


プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

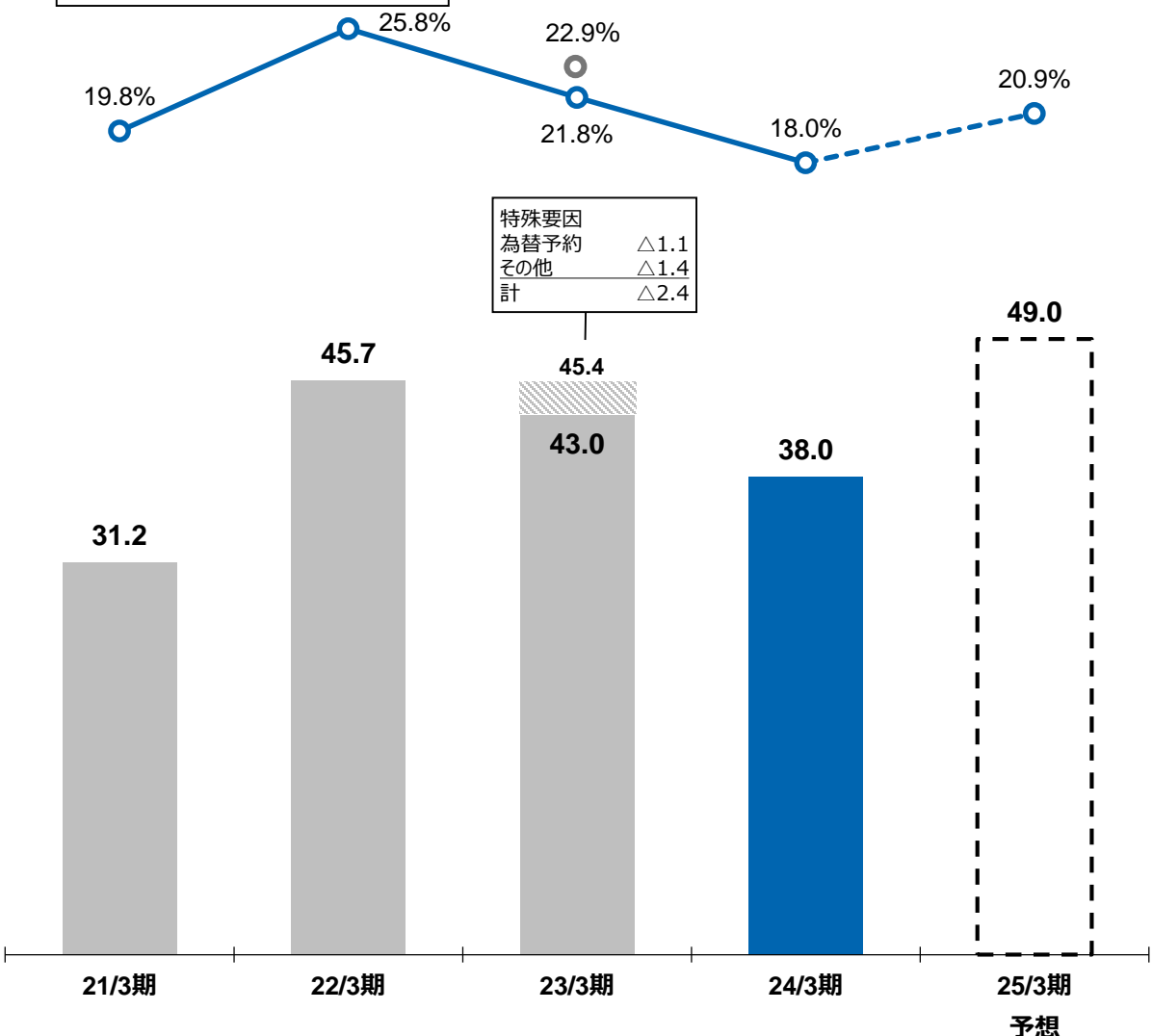
売上高 (10億円)



*24/3期 4Qより、サブセグメント名をピボットアッセンブリーからプレジジョンメカニカルコンポーネントに変更



営業利益 (10億円)

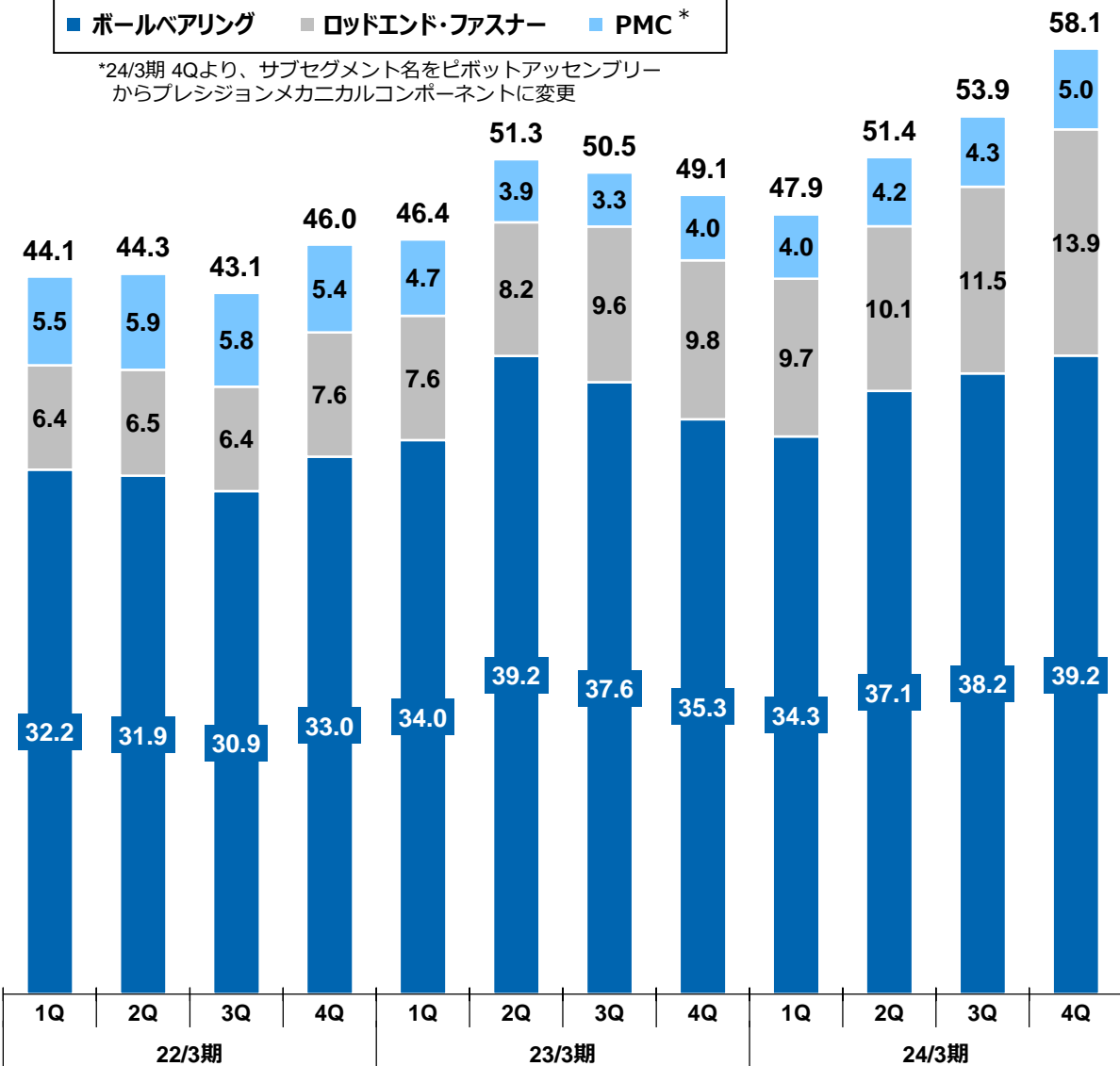


プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

売上高 (10億円)

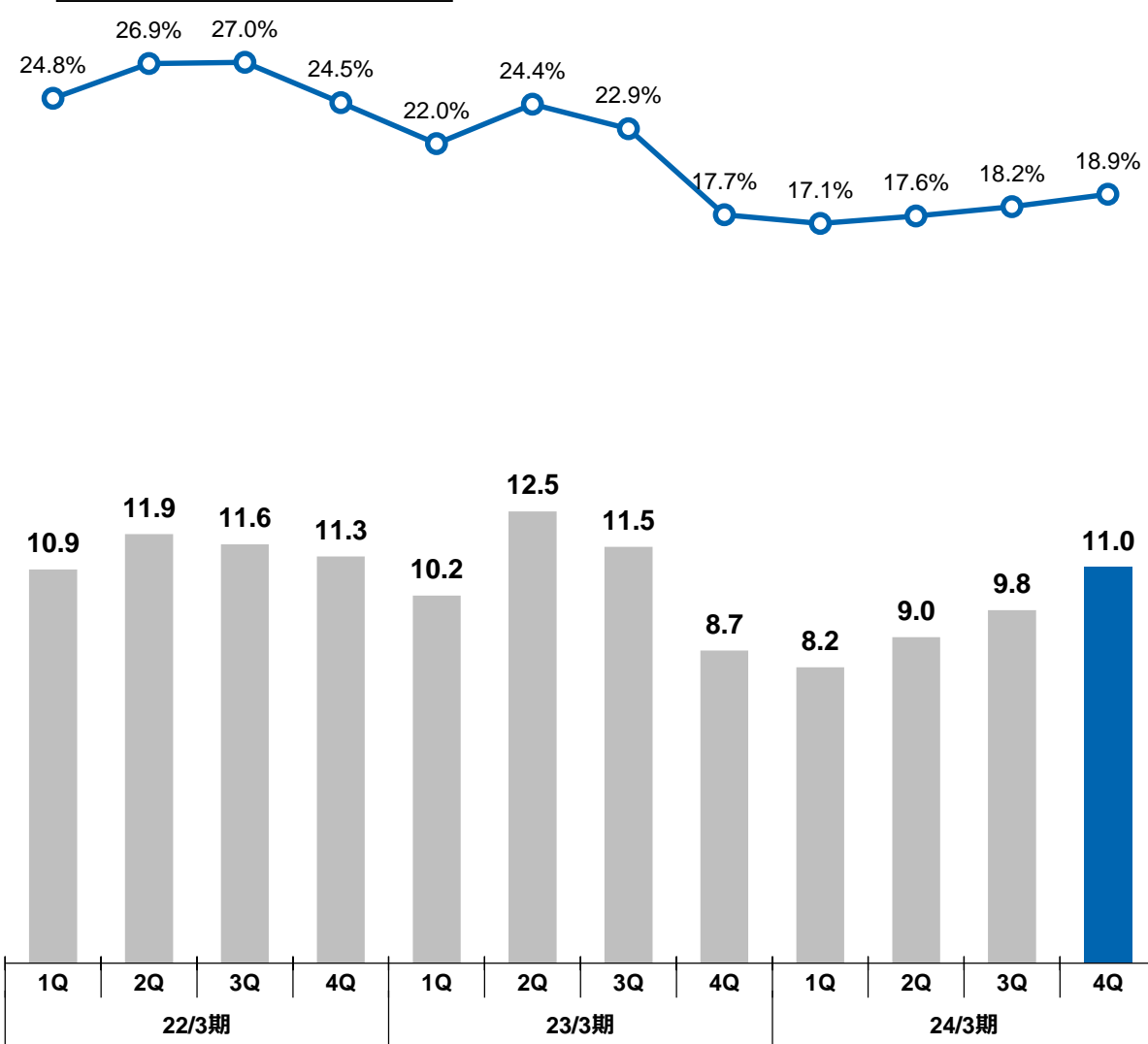
■ ボールベアリング ■ ロッドエンド・ファスナー ■ PMC*

*24/3期 4Qより、サブセグメント名をピボットアッセンブリーからプレジジョンメカニカルコンポーネントに変更



営業利益 (10億円)

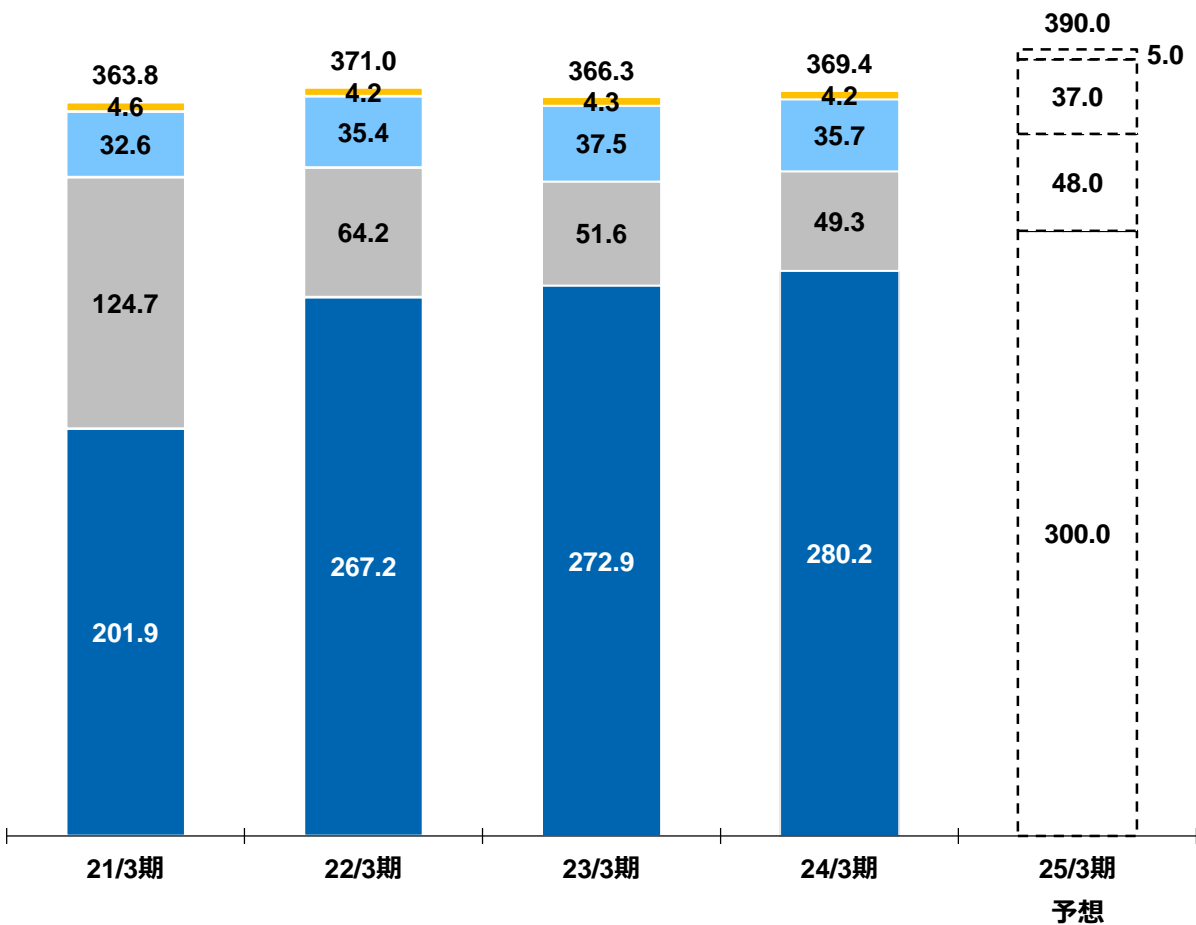
■ 営業利益 ○ 営業利益率



モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

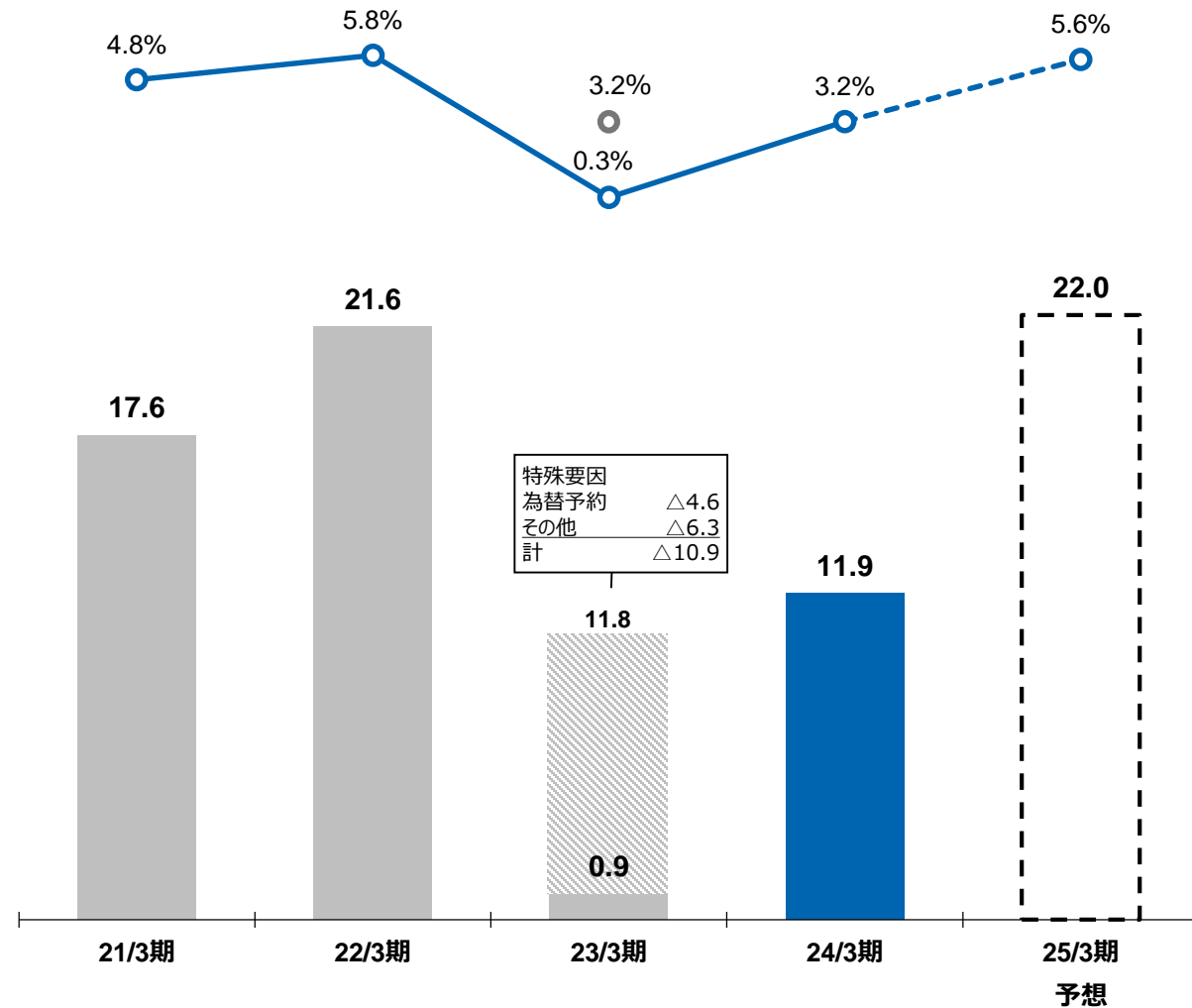
売上高 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



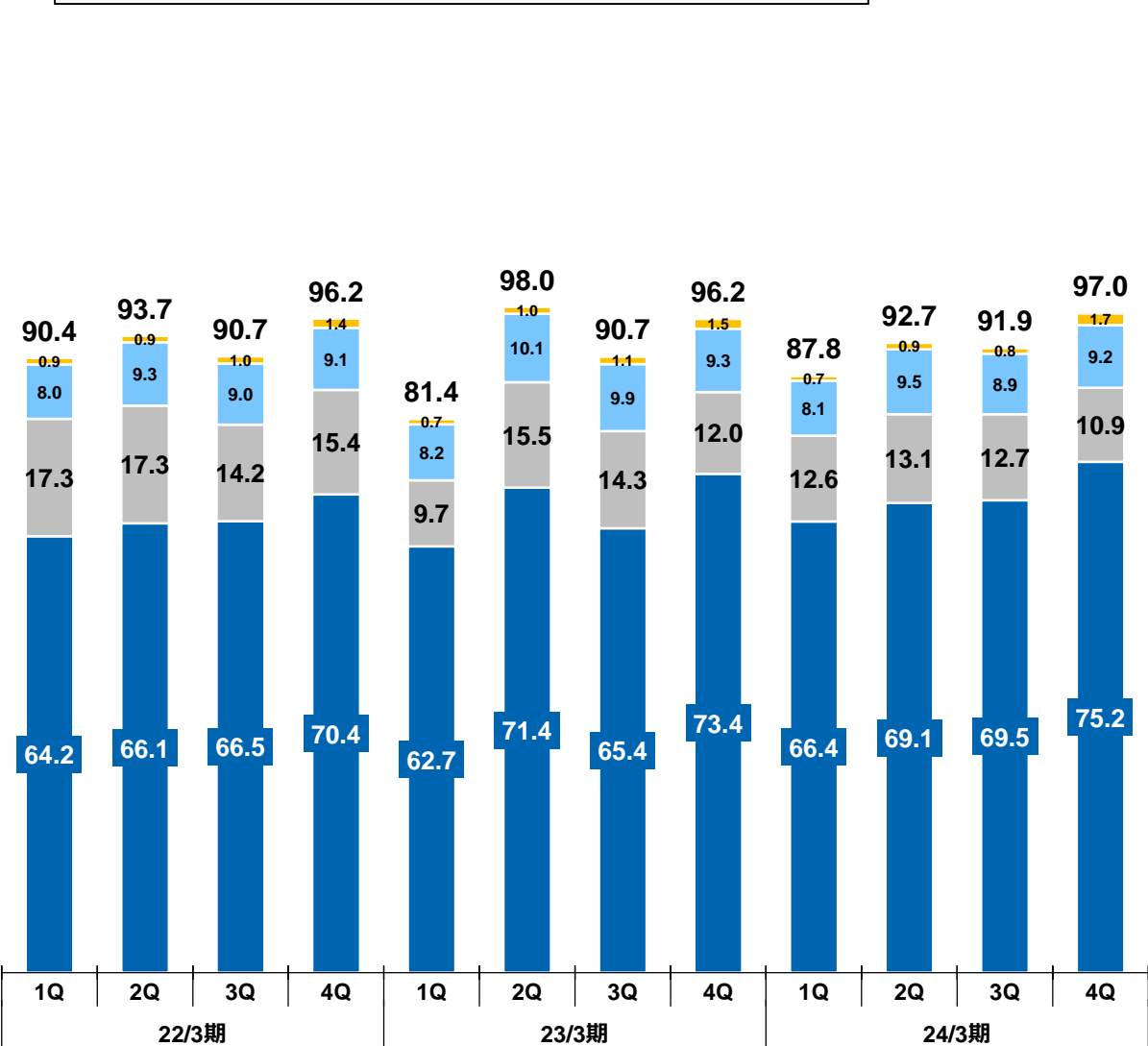
営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ○ 営業利益率

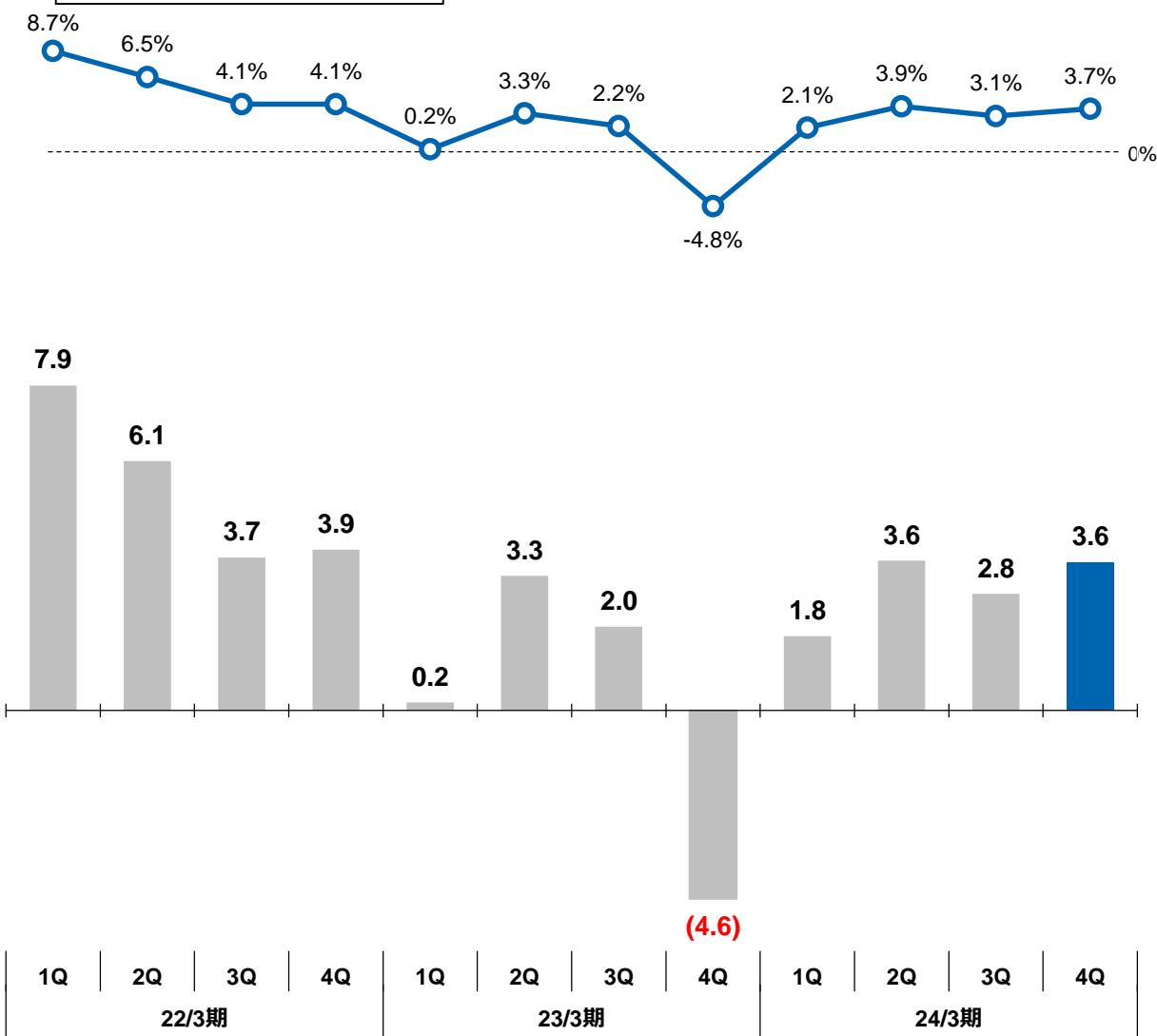


モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

売上高 (10億円)

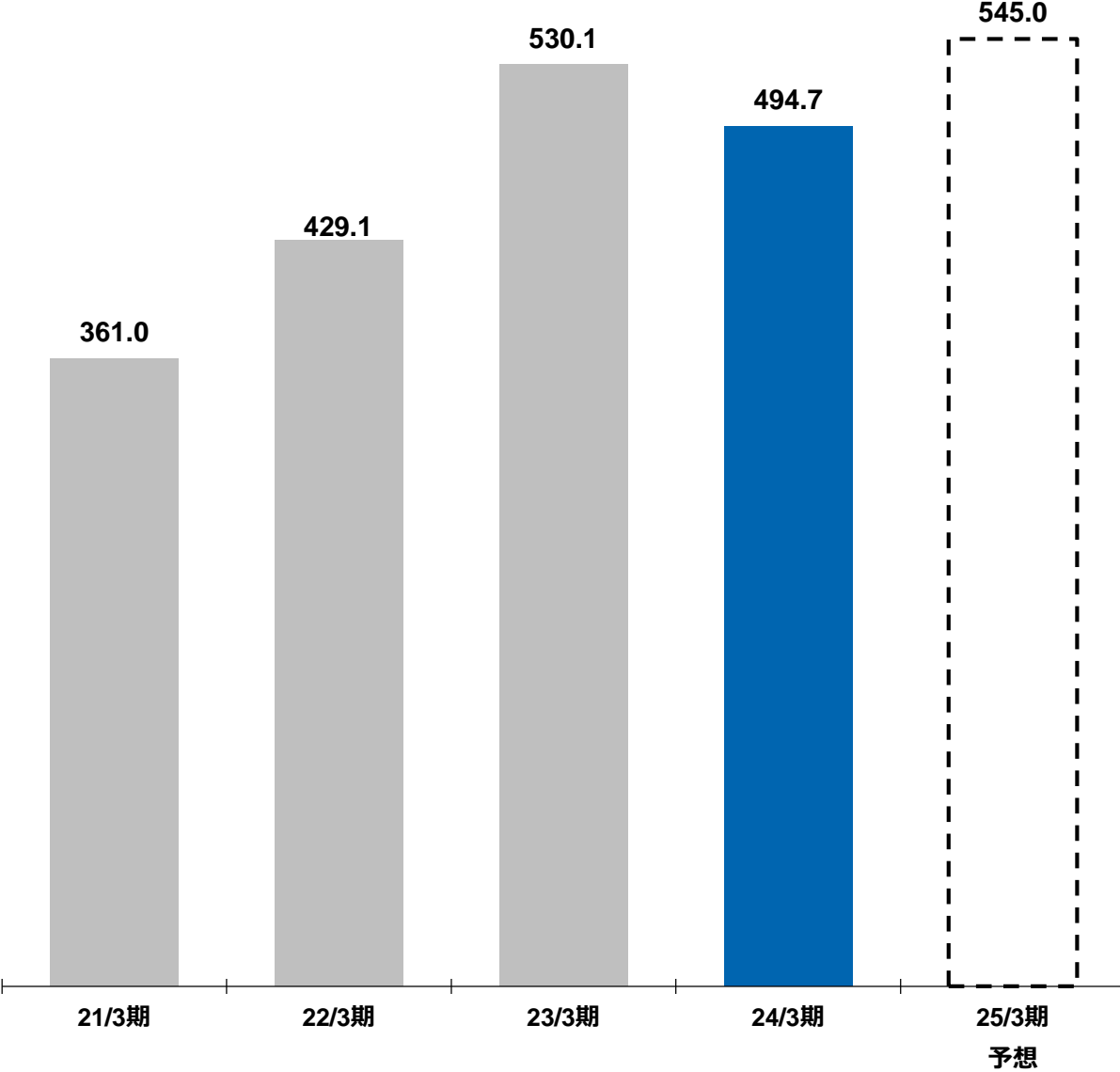


営業利益 (10億円)

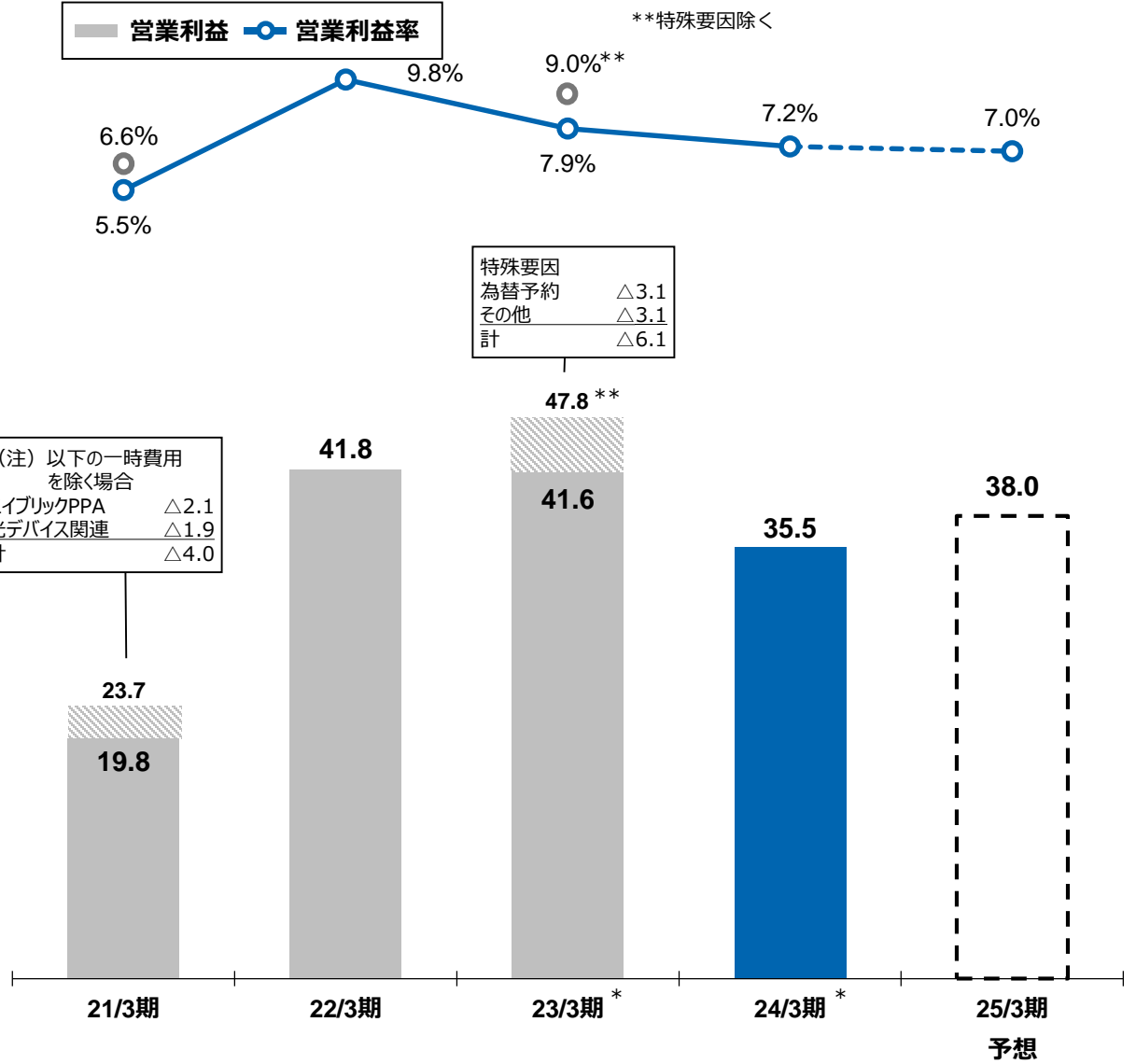


セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)

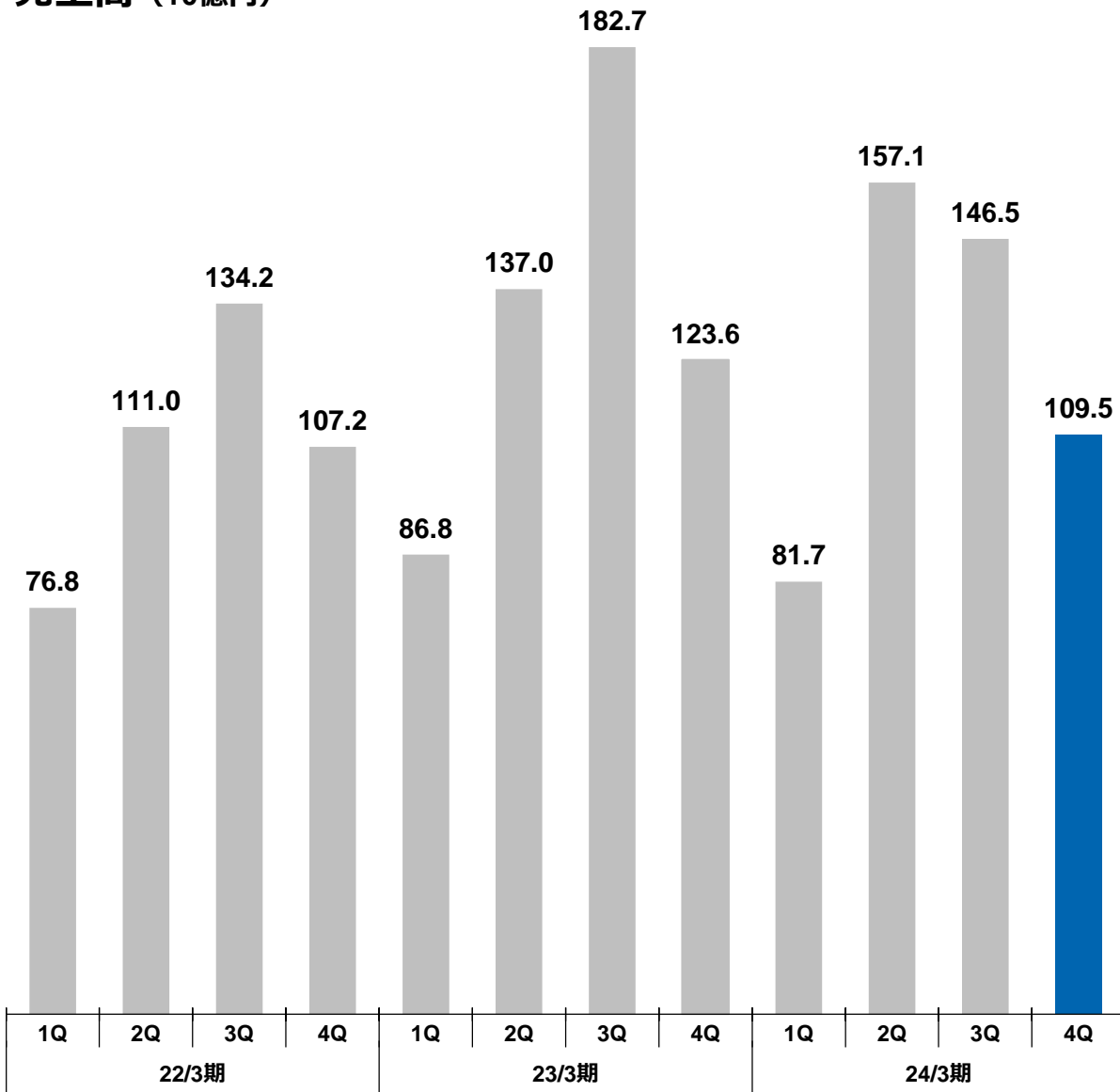


*本多通信工業・ミネベアコネク트의PPA評価完了に伴い、2024年3月期第2四半期以前の営業利益を遡及修正

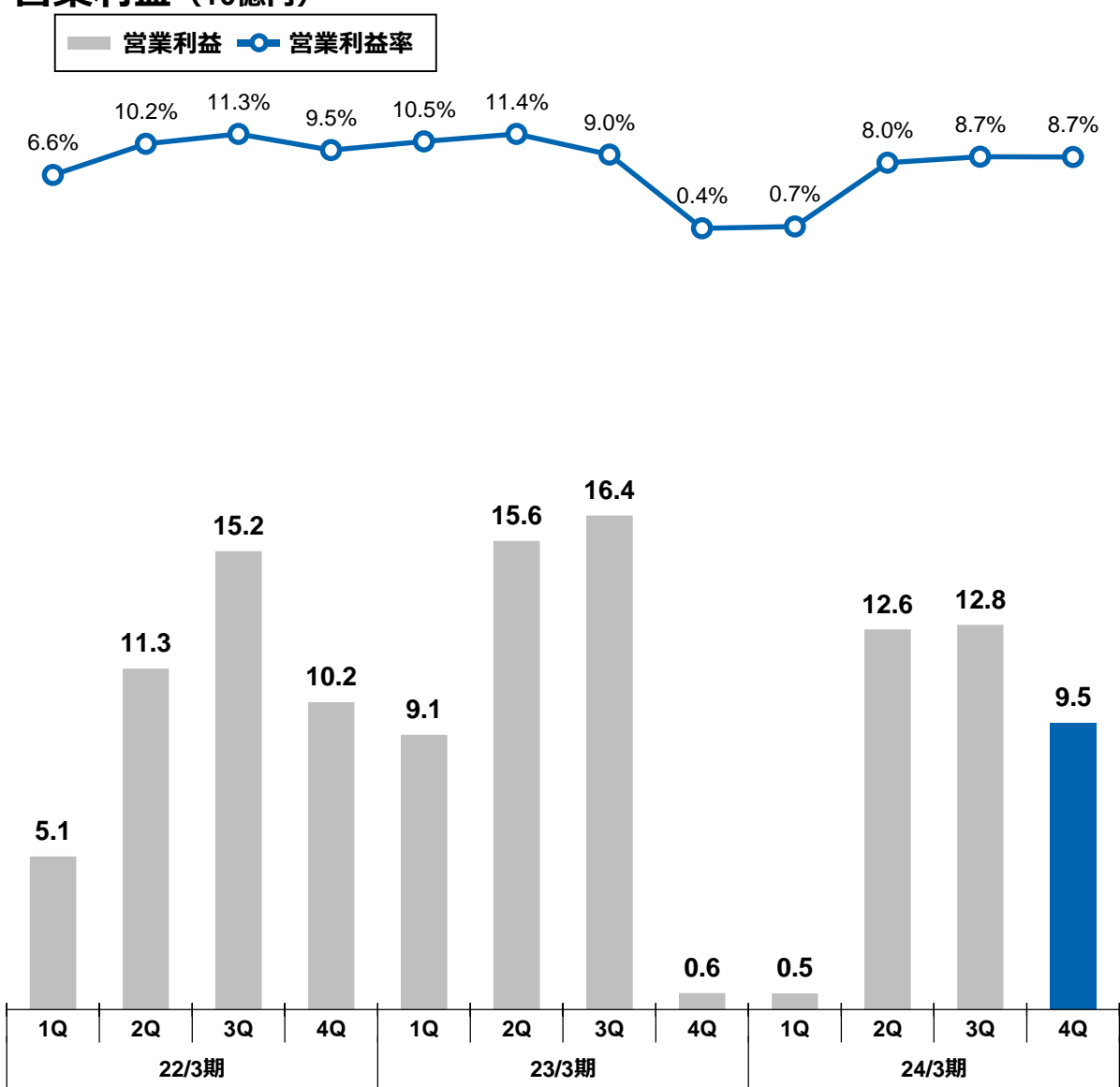
**特殊要因除く

セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (10億円)

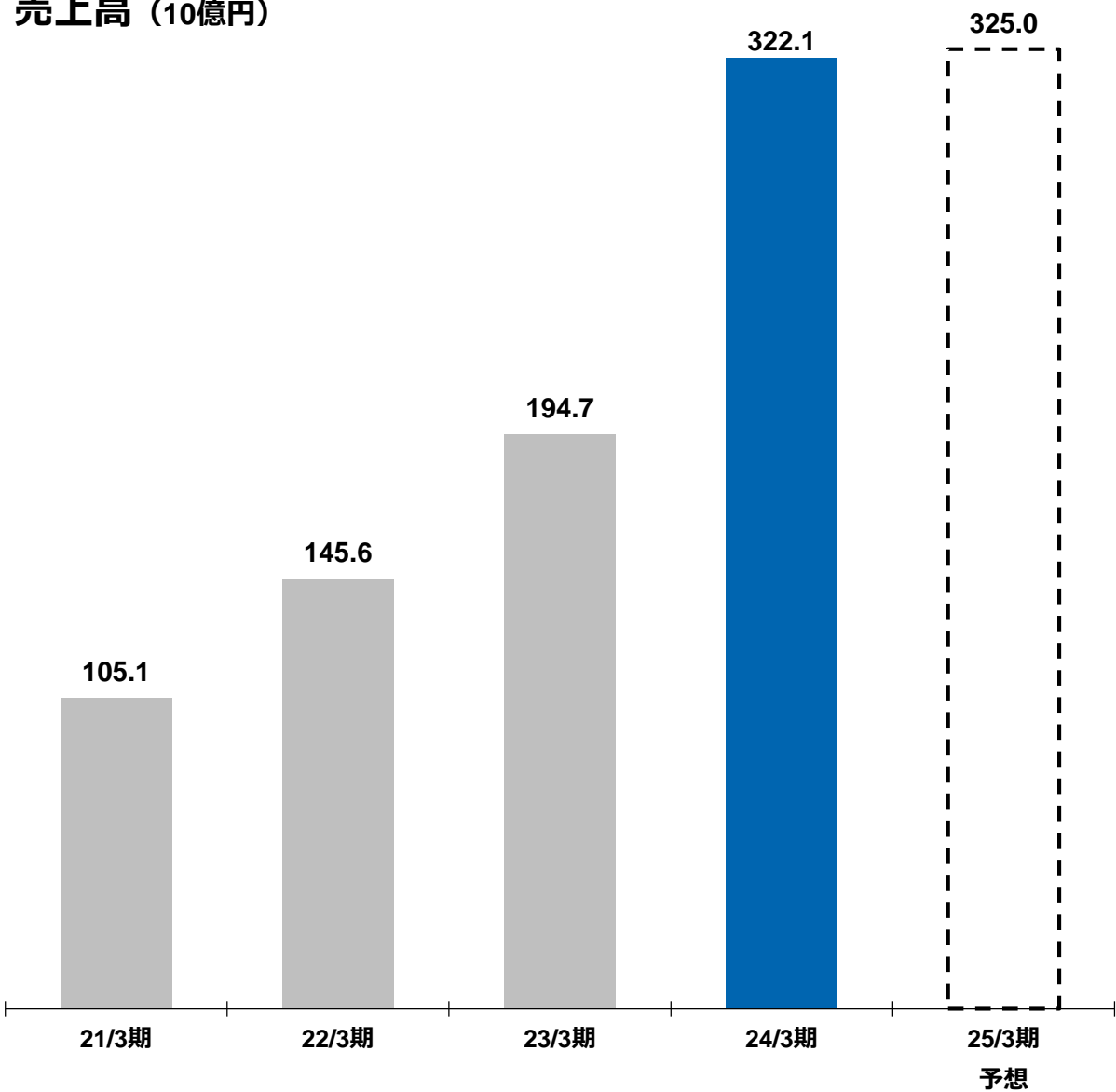


営業利益 (10億円)

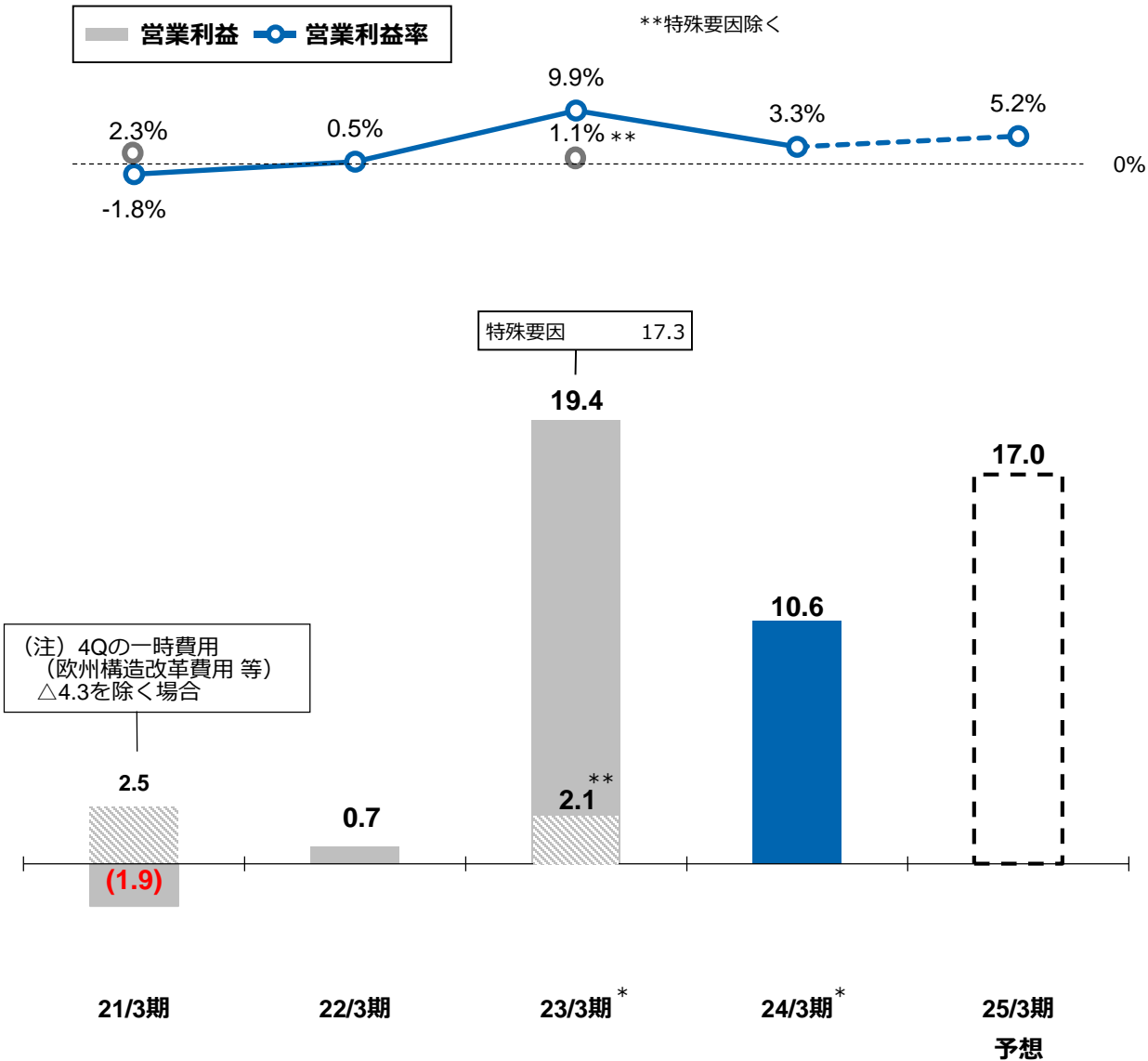


アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (10億円)

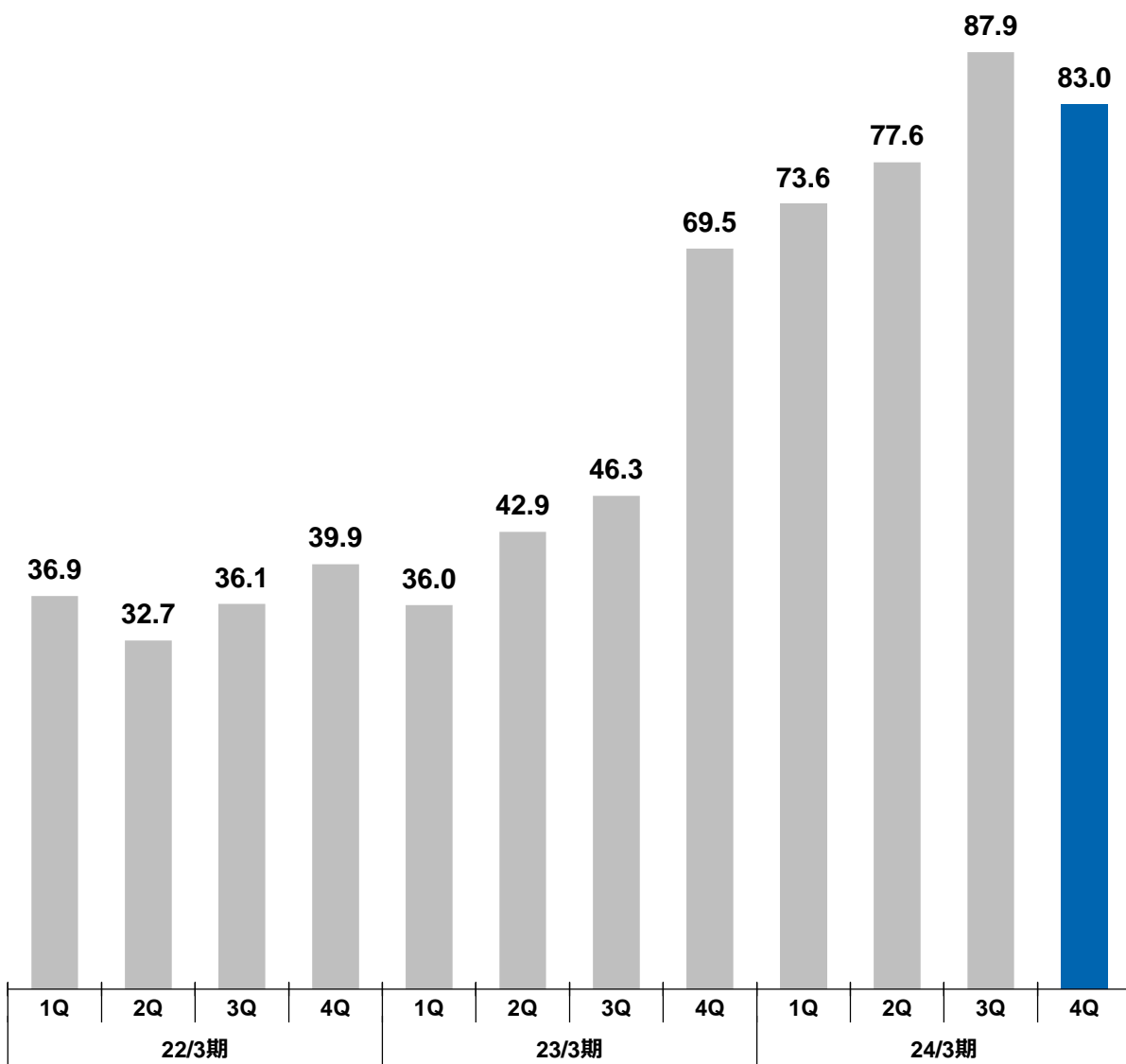


営業利益 (10億円)

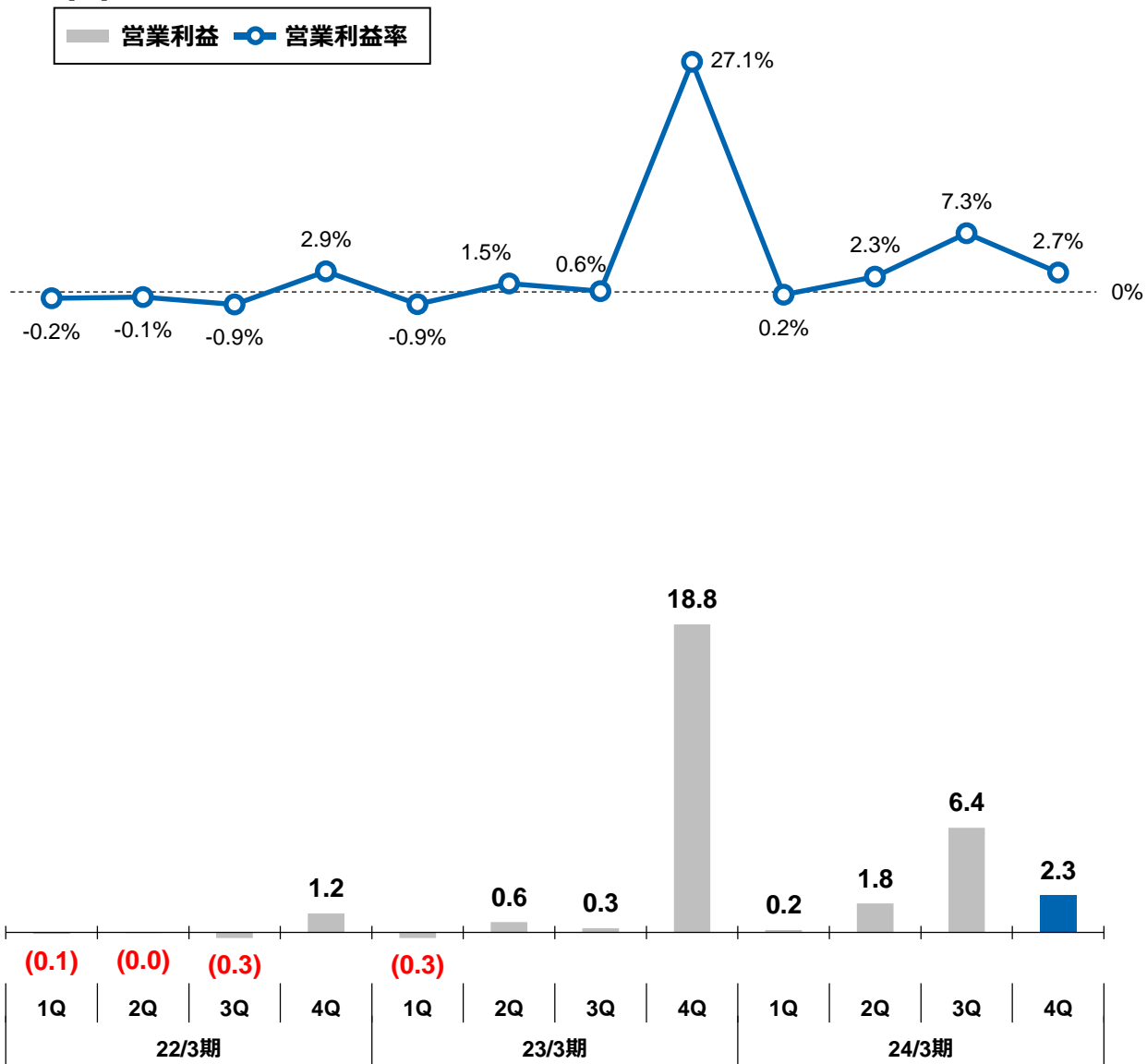


アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)

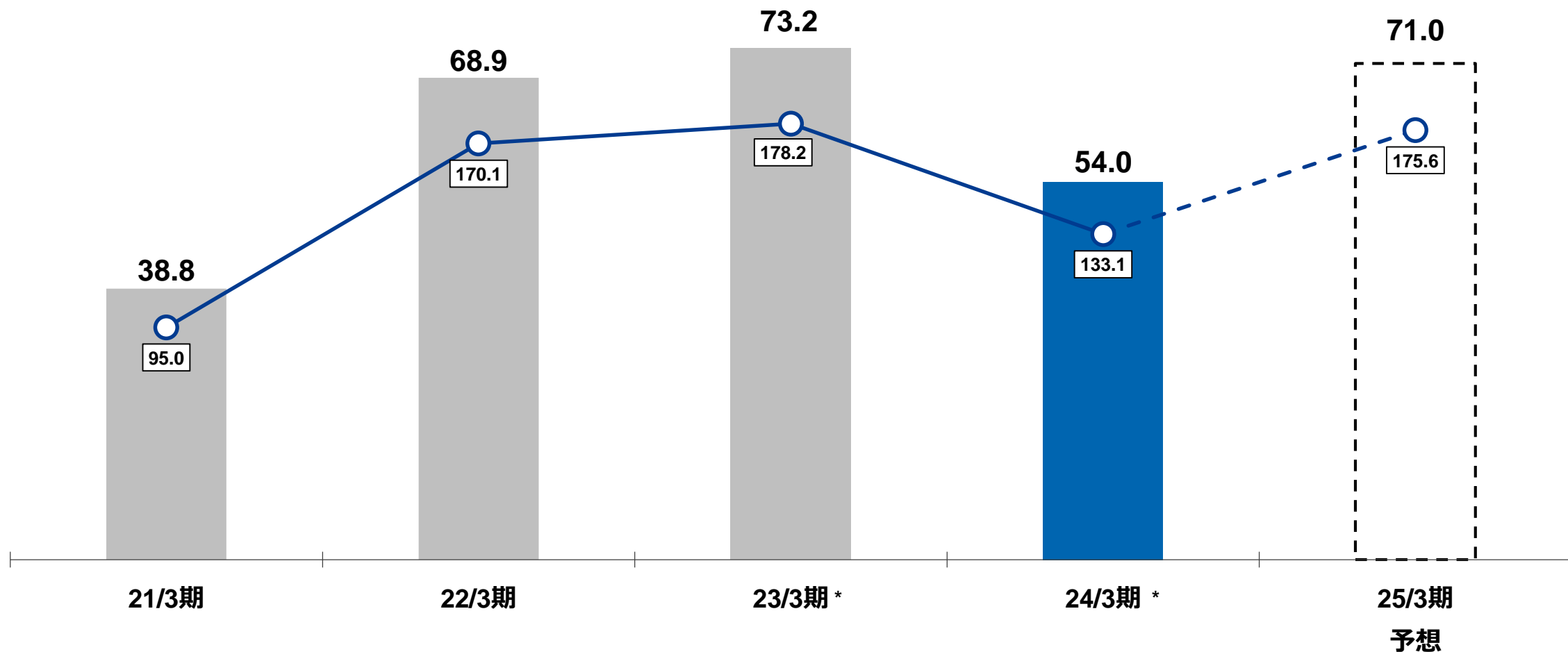


親会社の所有者に帰属する当期利益

(10億円)

■ 親会社の所有者に帰属する当期利益 ● 基本的1株当たり当期利益 (円)

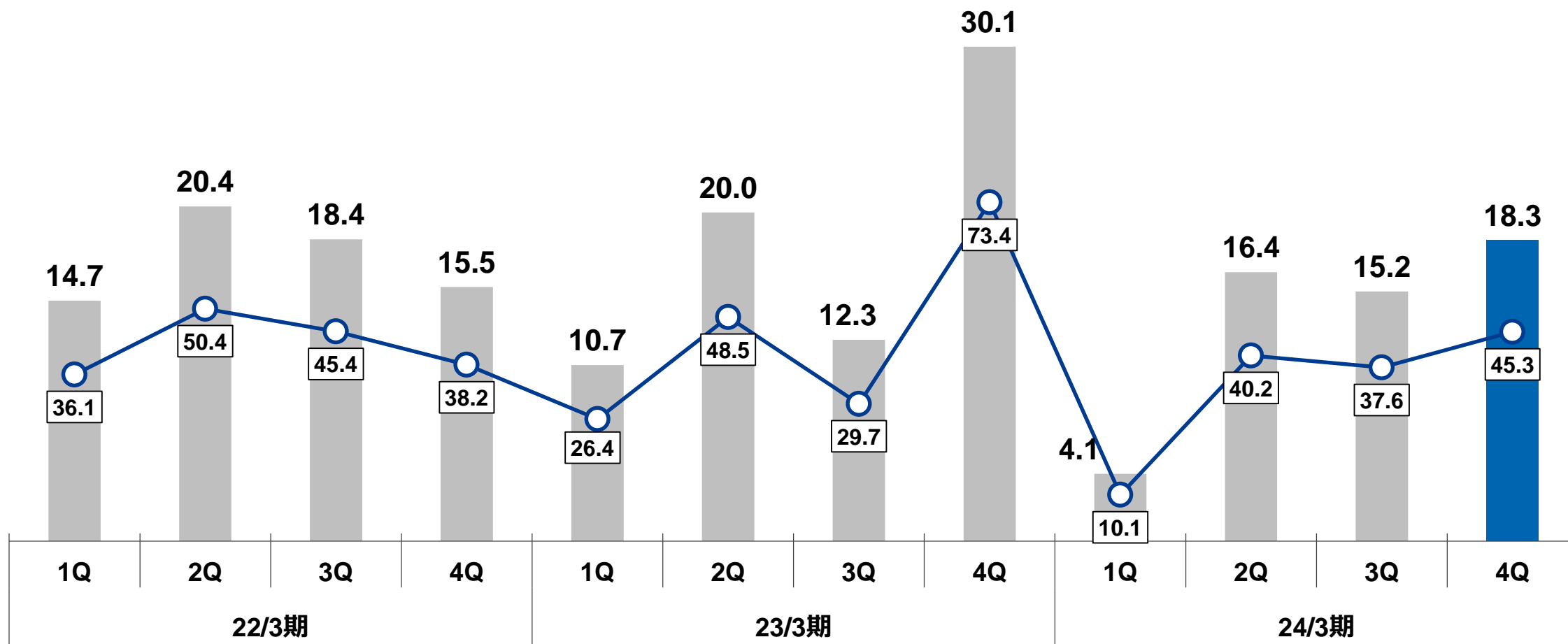
*本多通信工業・ミネベアコネクト・ミネベア アクセスソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の数値を遡及修正



親会社の所有者に帰属する四半期利益

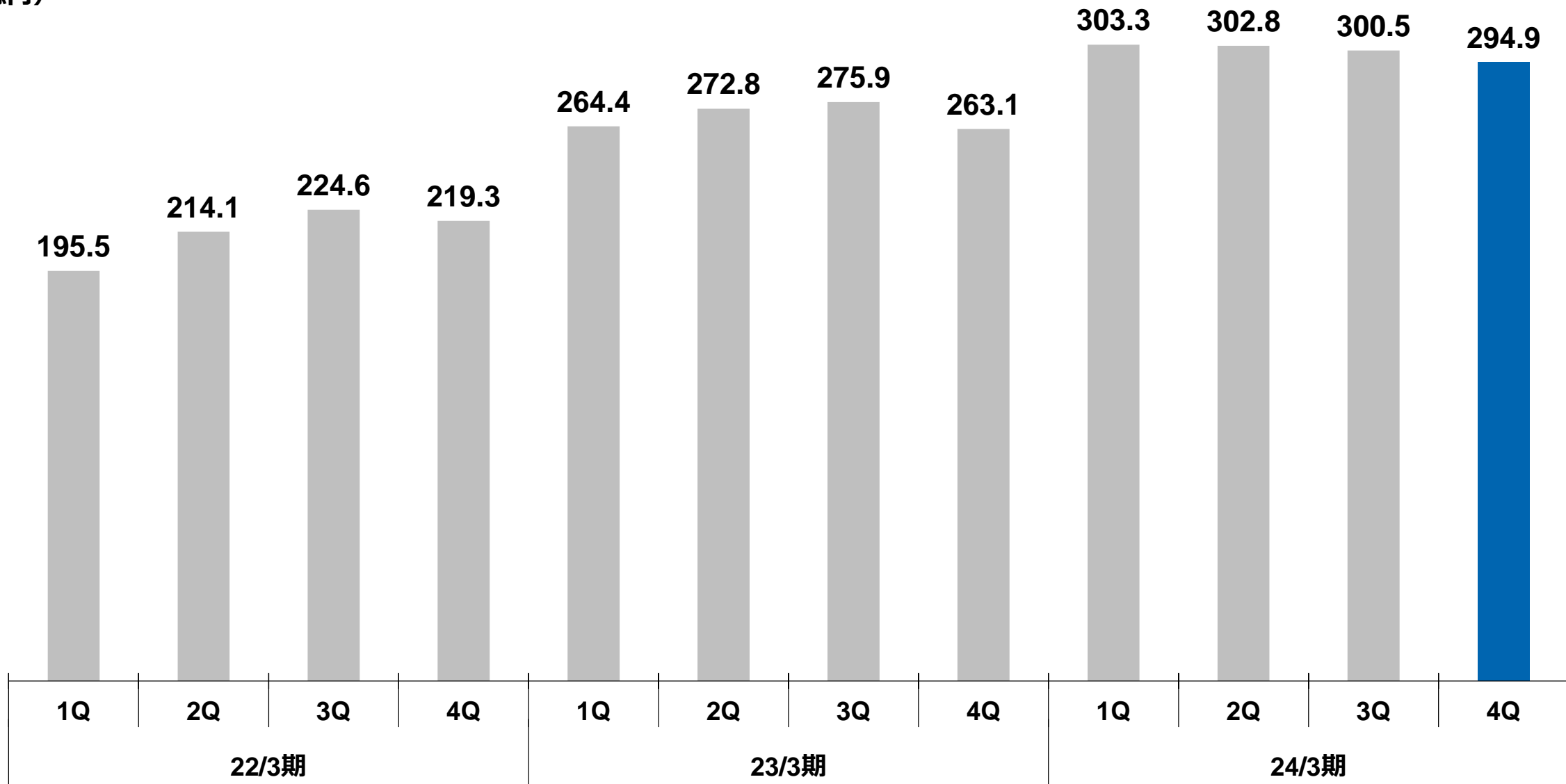
(10億円)

■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益 ○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



棚卸資産

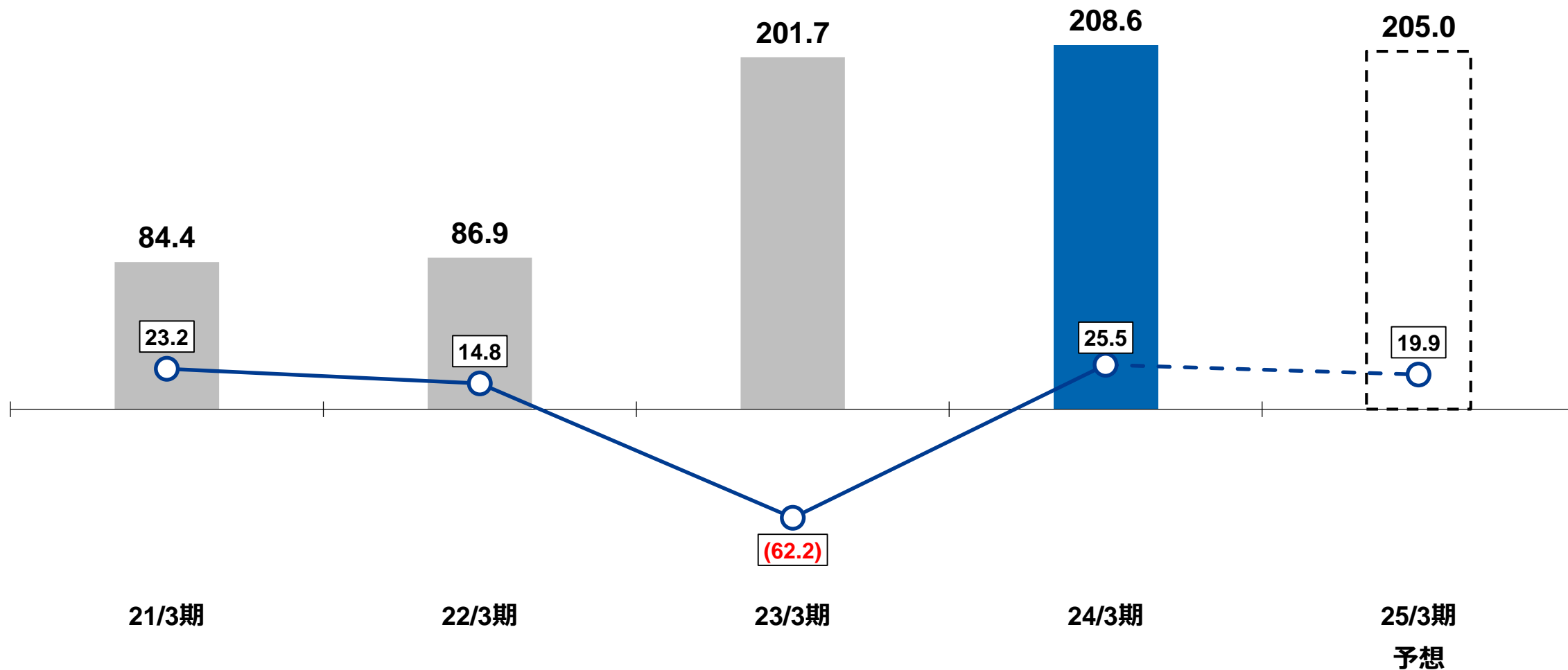
(10億円)



ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

(10億円)

■ ネット有利子負債* ○ フリーキャッシュフロー



*ネット有利子負債：連結財政状態計算書上の「社債および借入金」 - (「現金および現金同等物」+3か月超の定期預金)

売上高、営業利益等 過去最高を更新へ

(百万円)	2024年3月期	2025年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,402,127	704,000	796,000	1,500,000	+7.0%
営業利益	73,536	42,000	58,000	100,000	+36.0%
税引前利益	75,545	40,000	56,000	96,000	+27.1%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	54,035	29,000	42,000	71,000	+31.4%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	133.05	71.71	103.86	175.57	+32.0%

為替レート	2024年3月期 通期	2025年3月期 想定
US\$	143.31円	140.00円
ユーロ	155.18円	150.00円
タイバーツ	4.08円	4.00円
人民元	20.03円	18.50円

セグメント別業績予想

(百万円)	2024年3月期 通期	2025年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,402,127	704,000	796,000	1,500,000	+7.0%
プレシジョンテクノロジーズ	211,406	116,000	119,000	235,000	+11.2%
モーター・ライティング&センシング	369,388	191,000	199,000	390,000	+5.6%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	494,717	236,000	309,000	545,000	+10.2%
アクセスソリューションズ	322,108	159,000	166,000	325,000	+0.9%
その他	4,508	2,000	3,000	5,000	+10.9%
営業利益	73,536	42,000	58,000	100,000	+36.0%
プレシジョンテクノロジーズ	38,035	23,500	25,500	49,000	+28.8%
モーター・ライティング&センシング	11,867	10,000	12,000	22,000	+85.4%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	35,450	14,000	24,000	38,000	+7.2%
アクセスソリューションズ	10,601	7,000	10,000	17,000	+60.4%
その他	△728	△500	△500	△1,000	-
調整額	△21,689	△12,000	△13,000	△25,000	-

経営方針と事業戦略

Management policy & Business strategy

2024年5月10日

代表取締役 会長 CEO

貝沼 由久



全体

- 売上高は**11期連続過去最高を達成**。
- 営業利益は、環境改善傾向により、**業績予想（2024年2月修正）を5%超上回る735億円で着地**。
- データセンター市場はボトムアウトするも、現時点で大きな改善は見られない。
- 自動車向けは、車の生産台数回復とコンテンツグロースで引き続き好調。航空機向けは想定通り堅調に推移。
- **アクセスソリューションズは、106億円の営業利益を達成**。
- 市場環境は底入れの手ごたえ。M&A等をとおして各事業の足腰を強化。市場環境が改善すれば大幅増益を達成できる環境が整う。
⇒ベアリング、パワー半導体、航空機関連、モーターなど

プレジジョン テクノロジーズ（PT）

- 医療等の高付加価値品を含む在庫水準は正常化の兆し。データセンターは本格回復待ちの状況。
- 航空機向けはサプライチェーンのボトルネック・人員不足の問題も解消。**回復が継続**。

モーター・ライティング& センシング（MLS）

- モーターは、市場回復とコンテンツグロースにより車載向けで事業拡大が一層加速。
- HDD向けモーターは、市場の底打ちとともに、大容量化の進展でミックス改善が進む。

セミコンダクタ& エレクトロニクス （SE）

- アナログ半導体は引き続き緩やかな回復を見込む。
- **日立パワーデバイスとの統合は5月2日に完了**。
新社名はミネベアパワーデバイス（MPSD）に決定。スタートダッシュに向けてPMIは準備万端。
- 光デバイスの競争環境は現時点で変化なし。

アクセスソリューションズ （AS）

- **PMI活動と構造改革による収益性改善の結果、通期の営業利益目標を達成**。
- 車載デバイス事業の黒字化も貢献。

事業ベースでの通期営業利益1,000億円の必達

今期の ポイント

- 高付加価値品を含め在庫水準はボトムアウト。すべての分野で改善傾向を見込む
- 晴れに向かうなか、利益率の高い製品の戻りと生産性改善の効果で、大幅増益を見込む
- 自動化プロジェクトの更なる推進

前期約6,000名分（実績）、今期約5,000名分（目標）の工程を自動化および省人化
労務費削減で世界的な賃金上昇等に対処

(百万円)	2024年3月期 通期	2025年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,402,127	704,000	796,000	1,500,000	+7.0%
営業利益	73,536	42,000	58,000	100,000	+36.0%
<small>親会社の所有者に帰属する</small> 当期利益	54,035	29,000	42,000	71,000	+31.4%
<small>基本的1株当たり</small> 当期利益(円)	133.05	71.71	103.86	175.57	+32.0%

24/3期 通期営業利益実績比

セグメント別の損益改善ドライバー

【括弧内は、2024年3月期 第2四半期 決算説明会でご説明した、市場回復時点の25/3期営業利益イメージ（営業利益予想1,150～1,200億円）】

プレジジョン
テクノロジーズ
(PT)

- 高付加価値品の数量増加
- データセンター市場の回復は下半期
- 航空機市場の回復の継続
(ベアリングの個数回復待ち)

モーター・
ライティング&
センシング
(MLS)

- 車載向けのコンテンツグロース
- HDD向けモーターのミックス改善
- その他モーターは在庫調整から回復
(ほぼ復活)

セミコンダクタ&
エレクトロニクス
(SE)

- ミネベアパワーデバイスとの経営統合によるアナログ半導体事業のさらなる拡大
(本格回復道半ば)

アクセス
ソリューションズ
(AS)

- 車載市場の回復と統合による改善等の効果が通期で寄与
(保守的+中国リスク)

合計
(本社・調整含む)

+110 億円
(+130～170億円)

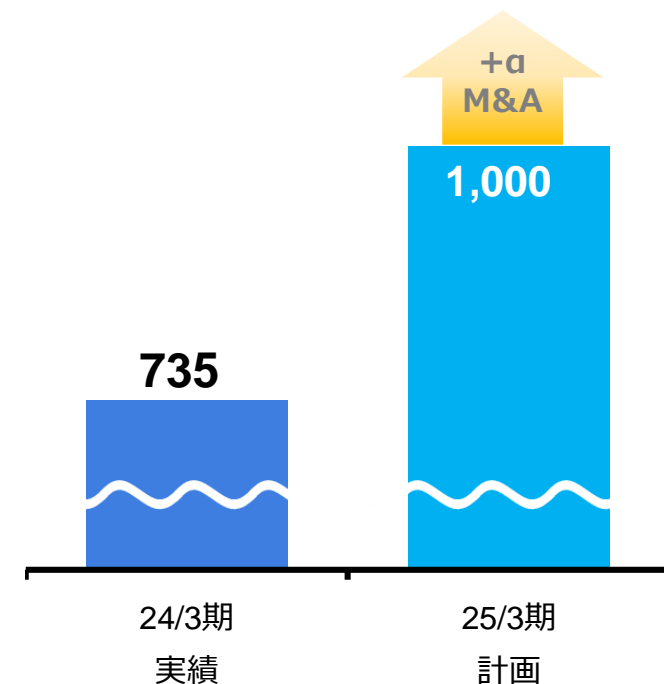
+101 億円
(+90～110億円)

+26 億円
(+70～90億円)

+64 億円
(+90～110億円)

+265 億円
(+380～480億円)

営業利益（億円）



売上高2.5兆円、営業利益2,500億円に向けて

11期連続 過去最高売上高更新！

24/3~29/3 CAGR
売上高 12.3%
営業利益 27.7%

※25/3~27/3の計画には
新たなM&Aによる上乗せは含まれない

09/3~24/3 CAGR
売上高 12.0%
営業利益 12.0%

(10億円)

売上高

営業利益

256

13

09/3期

10/3期

11/3期

12/3期

13/3期

14/3期

15/3期

16/3期

17/3期

18/3期

19/3期

20/3期

21/3期

22/3期

23/3期

1,402

74

24/3期

1,500

100

25/3期
計画

1,620

125

26/3期
計画

1,730

150

27/3期
計画

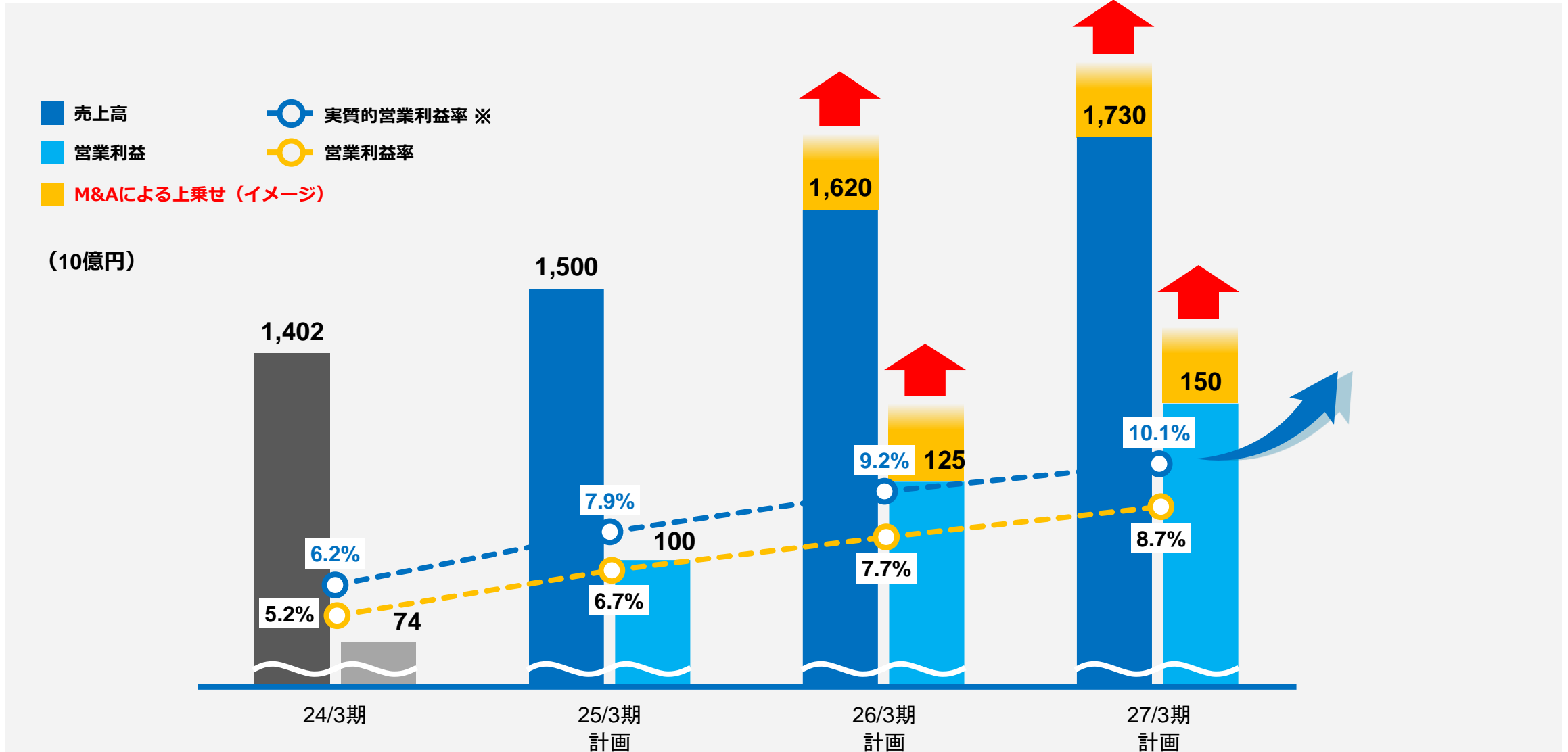
2,500

250

29/3期
目標

JGAAP | IFRS

現状の市場見通しをもとに中期事業計画を見直し



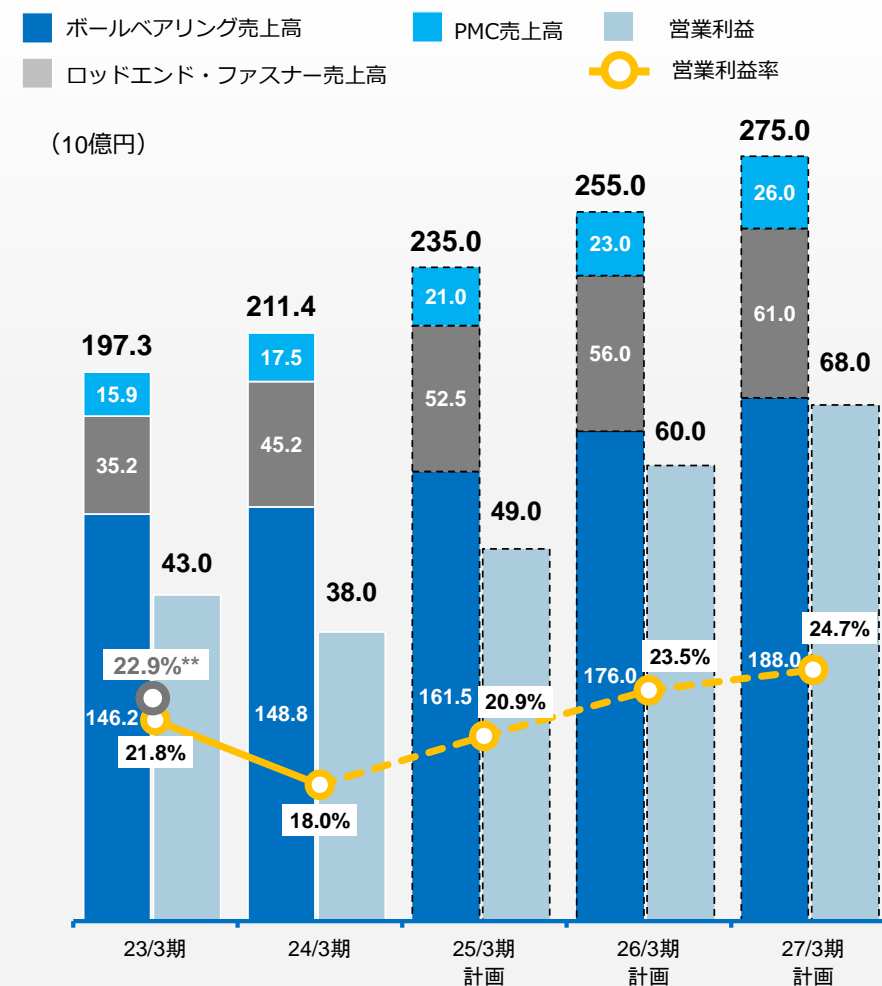
※ 実質的営業利益率：支給部品等の売上高を除いた場合の営業利益率

高付加価値品の客先在庫水準の適正化と市場の回復によるボールベアリングの成長 航空機の回復+成長、加えて新規事業の着実な離陸

主なポイント

- 1** ボールベアリング
**プロダクトミックスと更なる生産性改善
 月産370百万個まで生産能力増強済み**
- 2** ロッドエンド・ファスナー
**今期中にはコロナ前の生産機数に改善
 タイ工場拡張、M&A等も駆使し、更なる成長へ**
- 3** プレジジョンメカニカルコンポーネント (PMC ※)
**精密加工技術の強みを活かし、
 ボールねじ及びボールウェイ事業での
 早期のシナジー創出を目指す
 (本年12月統合予定)**

※ピボットアセンブリーよりサブセグメントの名称変更を行っております。



**特殊要因を除く

各アプリケーションの客先在庫水準は正常化 高付加価値品の需要拡大により収益力回復へ

主なポイント

1 高付加価値品の回復と需要拡大

メディカルなど高級アプリケーションの客先在庫水準は正常化。需要拡大により収益性向上。

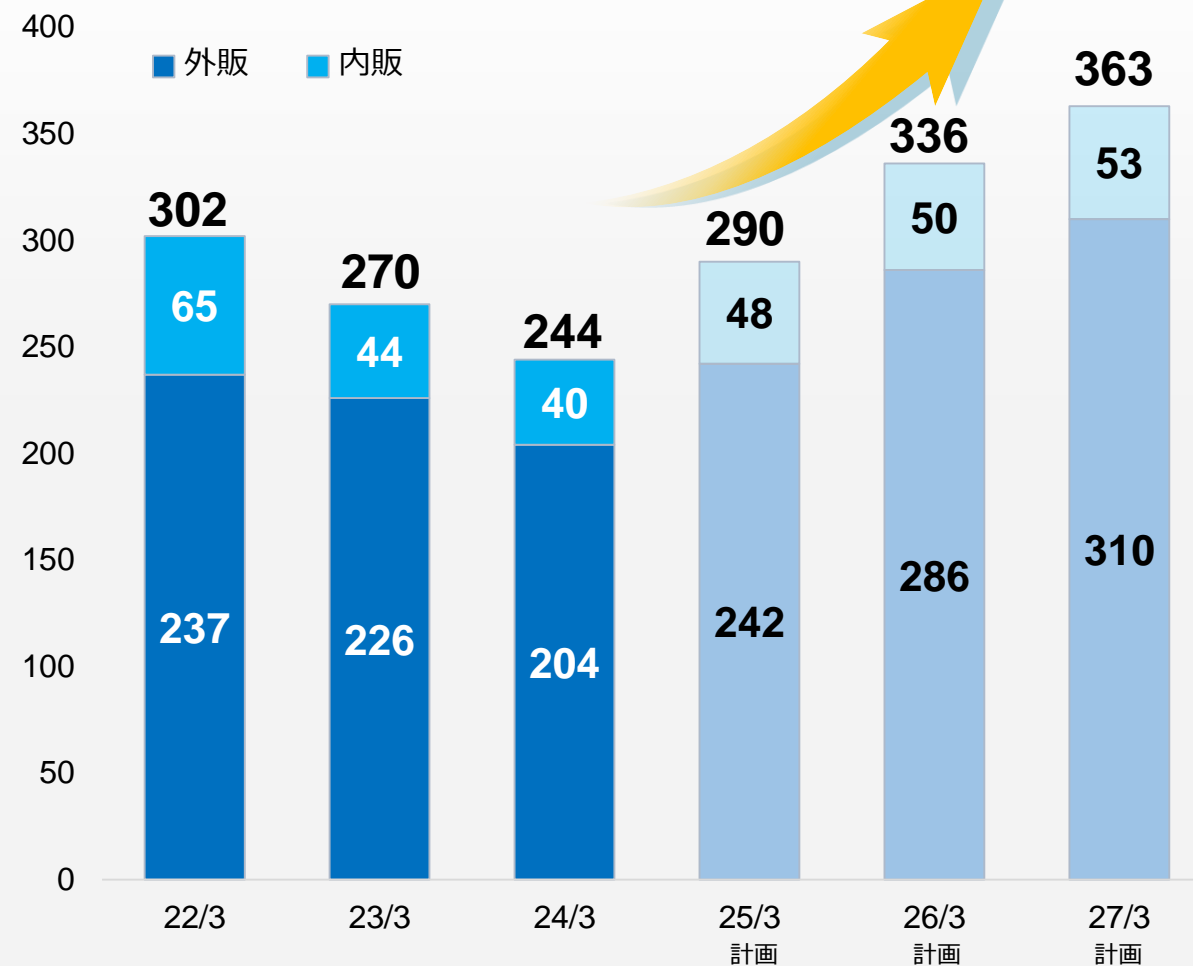
2 車載向けのコンテンツグロース継続

コンテンツグロースにより車載向け外販は過去最高を更新。成長拡大は継続。

3 データセンターは本格回復を待つ

AIや自動運転の発展により、データ生成量の拡大によるファン製品増加というスタンスは不変。市場回復のタイミングを待つ。

ボールベアリング 外販・内販の推移（百万個）



ツバキ・ナカシマより、ボールねじ等の事業を今期12月までに取得予定 相合と垂直統合を加速

統合によるシナジー

1 ポートフォリオ拡大

- ・ボールねじ・ボールウェイの製造技術・ノウハウを取得し、PT事業のポートフォリオ拡大。

2 「相合製品」の開発

- ・超精密加工技術及びモーター、半導体、制御等の幅広い製品群と組み合わせ、「相合製品」の開発も可能に。

3 収益力の向上

- ・海外生産拠点、グローバル販路を活用し、事業拡大。早期に高収益化を目指す。



ボールねじ



ボールウェイ

取得事業の概要

名称	TNリニアモーション株式会社
所在地	奈良県葛城市尺土19番地
代表者の役職・氏名	取締役 三宅 久裕
事業内容	ボールねじ及びボールウェイの製造及び販売事業
資本金	100万円
設立年月日	2024年12月10日 (予定)
大株主及び持株比率	株式会社ツバキ・ナカシマ 100%

※ 当該会社は、新設分割により設立される予定であるため、直近事業年度の財政状態及び経営成績はありません。

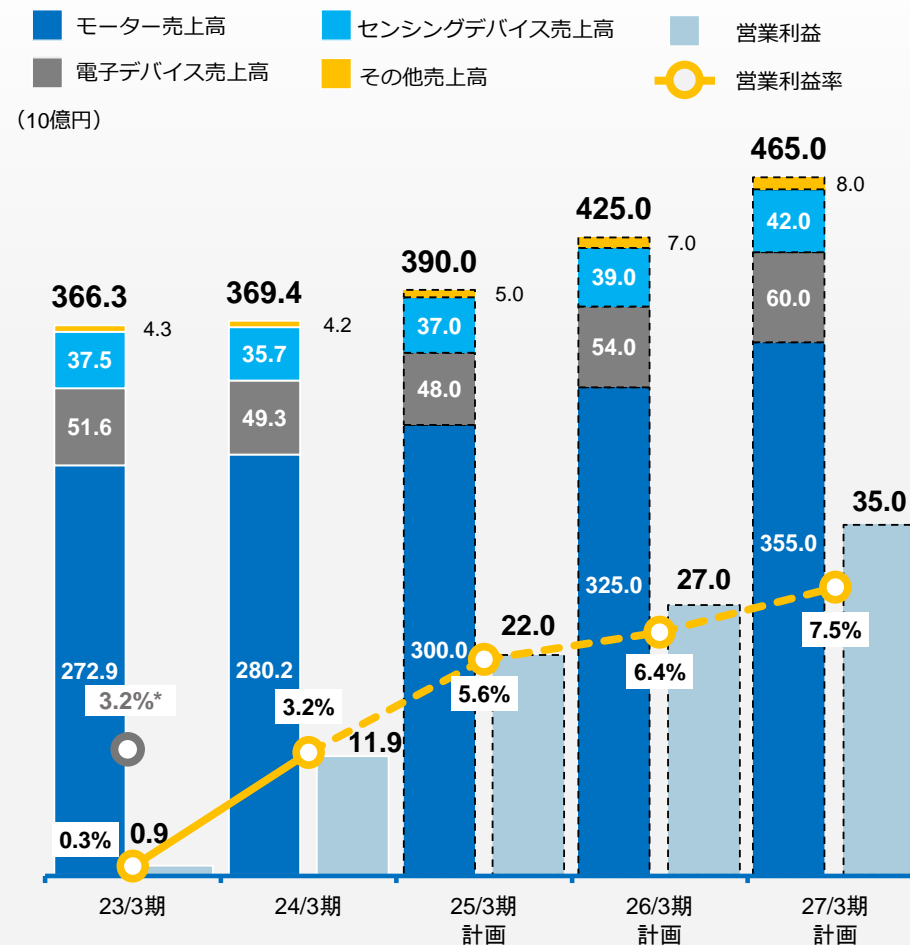
モーターを柱にトップライン成長 モーターの営業利益は250億円へ

主なポイント

1 モーター
車載モーターのコンテンツグロースで収益増
グローバルニッチトップを目指す

2 モーター
HDDモーターの
プロダクトミックスの改善が進む

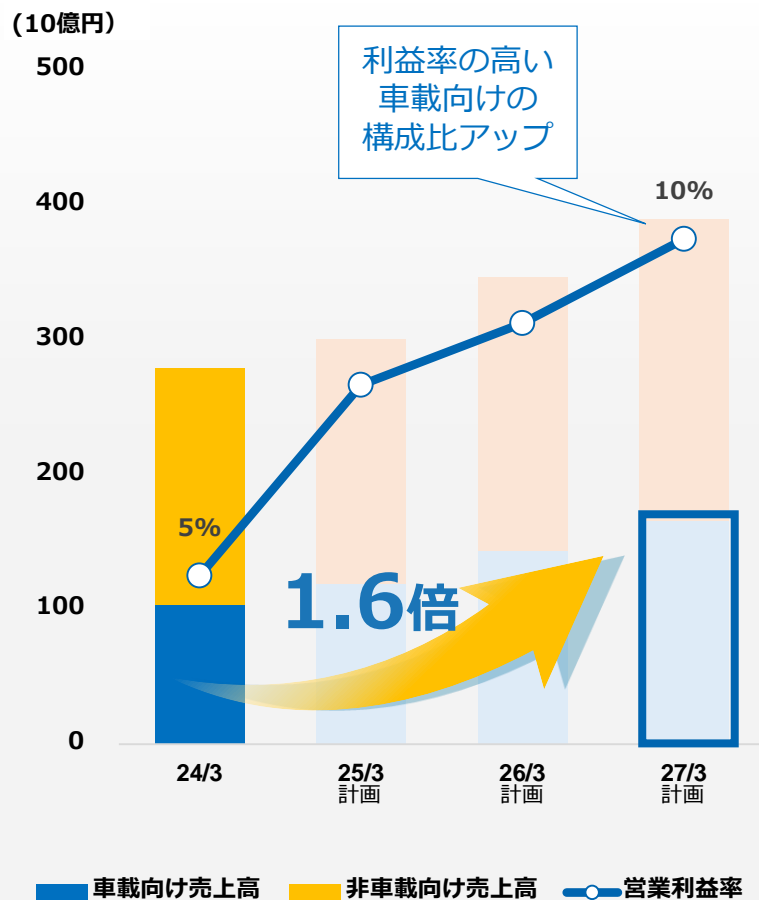
3 電子デバイス
バックライト事業は、
スマホ向けがOLEDに変わっても収益確保
車載向けは大型プロジェクトが今後進行



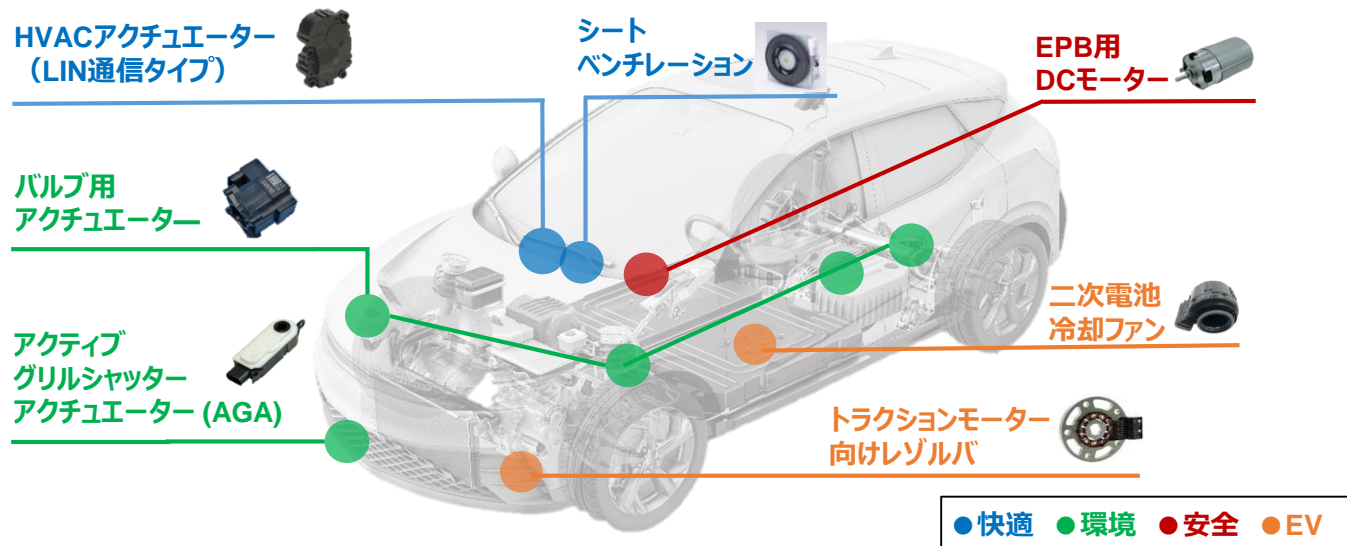
*特殊要因を除く

圧倒的な技術力で車載向けはグローバルニッチトップと高マージンを確保 コンテンツグロースで成長が加速し、27/3期には10%以上の営業利益率を達成

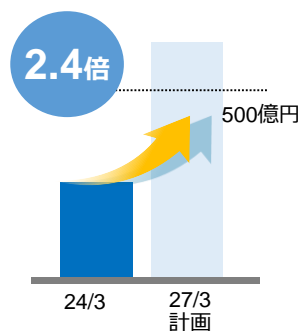
モーターの売上高／営業利益率の推移



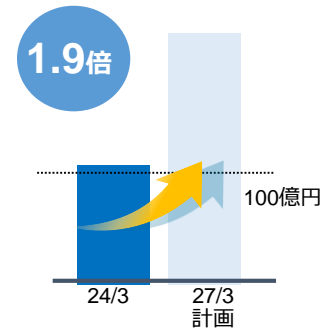
車載向け主要モーターの一例



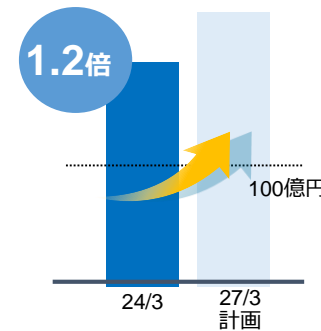
▼モーターアクチュエータ



▼レゾルバ



▼車載ファン



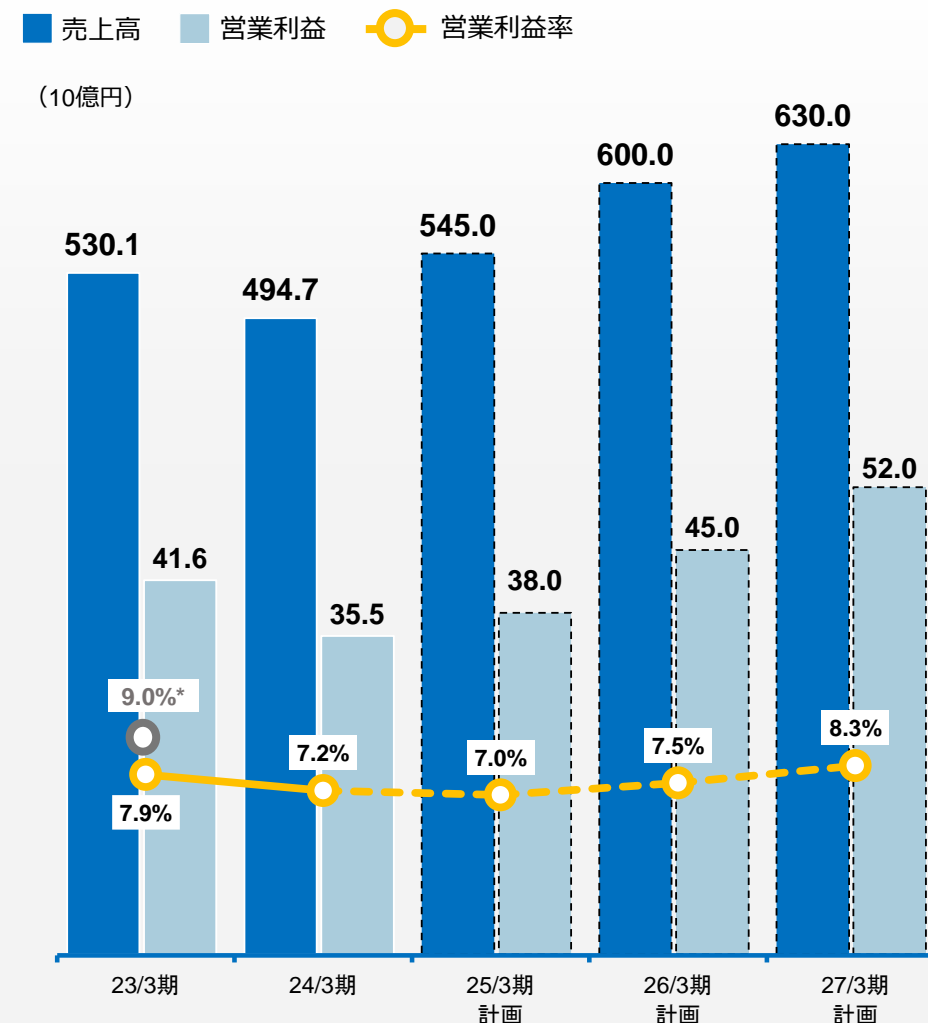
さらなる成長を目指し10%以上の利益率へ

主なポイント

1 アナログ半導体
 ミネベアパワーデバイスとの経営統合による
 アナログ半導体事業のさらなる拡大
 早期に売上高2,000億円、
 営業利益率30%を目指す

2 光デバイス
 超広角AF用セブ第二工場も今期中にフル稼働
 技術力、品質、顧客対応力で
 新規モデルの獲得を目指す

3 機構部品
 新規モデルの着実な立ち上げ



*特殊要因を除く

ミネベアパワーデバイスとの経営統合により、開発から一貫生産できる垂直統合ビジネスを展開することでパワー半導体事業の拡大を目指す

経営統合により実現すること

1 チップからモジュールまでの垂直統合

- 製品ラインアップの拡充
- MPSD高耐圧技術による電鉄・エネルギー等のニッチ市場の開拓

2 MPSDの最先端技術との融合で技術力の強化

- 従来トレンチゲートIGBTに対して遥かな高性能を実現できるサイドゲートIGBTは、既に滋賀工場で作中。今期より市場に投入、グローバルニッチトップを追求できる
- パワー系の開発技術者の人員増強。SiCの技術者の獲得（ミツミ150名、エイブリック100名、MPSD150名=400名）

3 モジュール技術の取り込み

- 相合による高付加価値・高品質な製品の創出
- チップビジネスで取り込めない付加価値の獲得

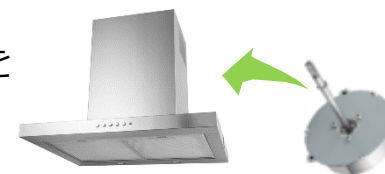
4 製造体制

- 前・後工程 社内Fabの製造拠点の最適化と自社能力・生産比率アップで付加価値の拡大
- 製造工程・ノウハウの「良いとこ取り」によりシナジー最大化とコスト低減

相合による新たな付加価値の創出

1 モーターソリューション

高圧モーター制御の製品ノウハウをDCモーター製品に最大活用。高圧IC採用により部品点数半減で低コスト化



2 ミドルパワー・ハイパワー電源

先端高効率デバイスと回路設計・部品加工の相合による高効率化・小型化。当社電源への取り込みを進める



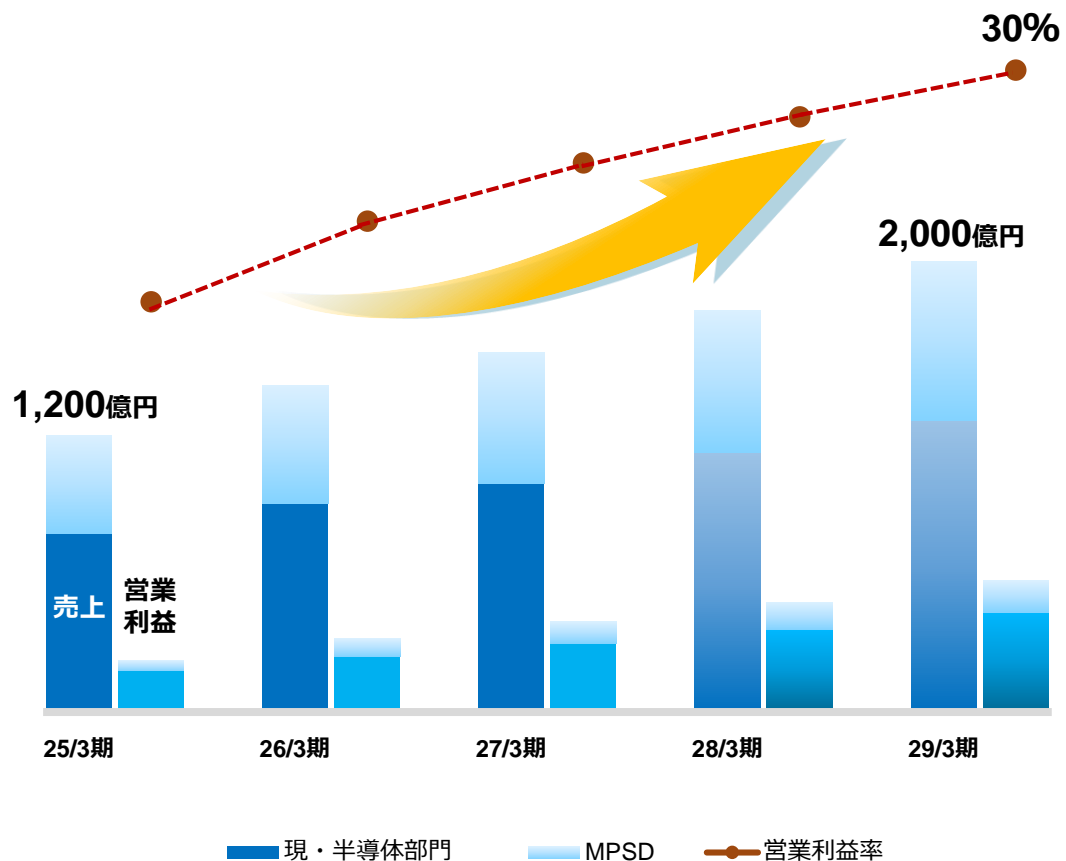
3 医療向けデバイス

医療向けデバイスプロセス技術とIC設計技術の相合によるラインナップ増強。エイブリック製品と合わせることで客先の用途に合わせ幅広いチャネルに対応。高耐圧スイッチICの圧倒的な品揃えを実現



29/3月期に 売上高 2,000億円、営業利益率30%を目指す アナログ半導体は2本目の槍に番付変更

アナログ半導体部門の中期目標



ミネベアミツミ8本槍戦略

- 1 ベアリング
- 2 アナログ半導体 **番付変更!**
- 3 モーター
- 4 アクセス製品
- 5 センサー
- 6 コネクタ/スイッチ
- 7 電源
- 8 無線/通信/ソフトウェア

市場回復と統合効果で継続的に収益力向上 相合・高付加価値品の市場投入で営業利益率10%を目指す

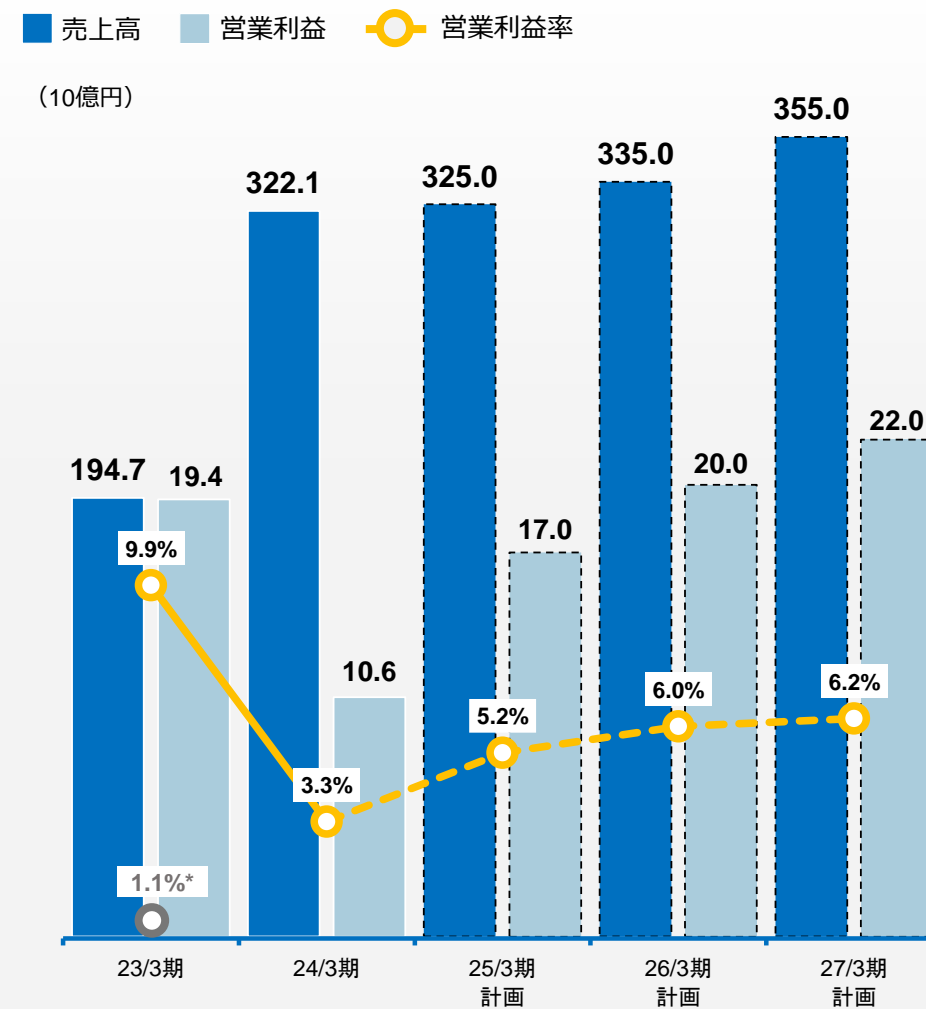
主なポイント

1 市場回復、統合によるコスト削減
および構造改革効果が顕在化

2 相合および高付加価値製品へシフト

- ①CSD
- ②Flush handle
- ③E-Latch
- ④チャージポートドア

3 車載デバイス利益貢献が継続


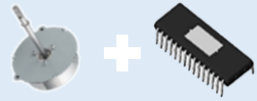




*特殊要因を除く

多様な製品を相合わせる事で新たな価値・製品を創出

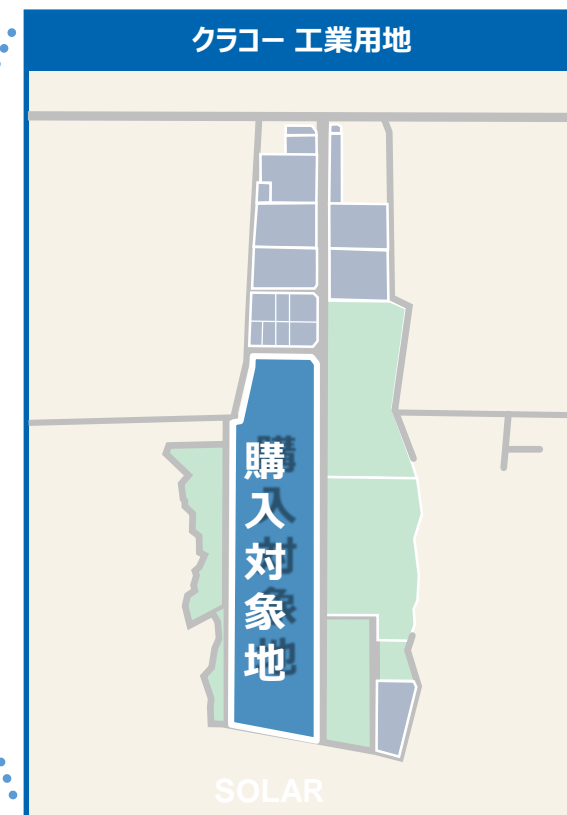
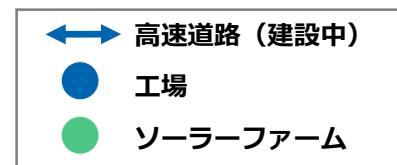
成長のキーワード		8のコア事業【8本槍】							
xEV、CASE、データセンター、スマート化、自動化		ベアリング 	アナログ 半導体 	モーター 	アクセス製品 	センサー 	コネクタ/ スイッチ 	電源 	無線/通信/ ソフトウェア 
モーター ソリューション	高速ファンモーター 	●	●	●		●	●		●
	LiDAR用アクチュエーター  LATM Limited Angle Torque Motor	●	●	●		●			
	スマートアクチュエーター 		●	●		●	●		●
	機電一体HBモーター 	●	●	●		●	●		●
	振動デバイスHMIソリューション 		●	●			●		●
アクセス製品	フラッシュハンドル 		●	●		●	●		
	CSD Compact Spindle Drive 	●	●	●		●			
	チャージポートドア 		●	●		●	●		●
ニューモーション ソリューション	 モーター & 制御 + アbsolute エンコーダー + 減速機 + ボールねじ + 電動 グリッパ	●	●	●		●	●	●	●

多様な製品を相合わせる事で新たな価値・製品を創出

成長のキーワード		8のコア事業【8本槍】							
+4高（高電圧、高電流、高速、高周波）、モジュール化		ベアリング	アナログ半導体	モーター	アクセス製品	センサー	コネクタ/スイッチ	電源	無線/通信/ソフトウェア
4高関連製品	ハイパワー電源モジュール 	●	●	●			●	●	●
	高効率高圧モーター 	●	●	●		●	●		●
	デジタルキーソリューション 	●	●	●		●	●		●
	無線ソリューション 		●	●			●		●

事業拡大に伴い、カンボジア王国プルサット州に新工場を建設するための用地を確保 再生可能エネルギーの活用も可能なことから、当該地域への進出が有利と判断

1. 場所: Krakor District, Pursat Province
2. 面積: 約50ha (約500,000 m²)
3. 生産品目 (予定): 機械加工品 (PMA製品: Precision Mechanical Assembly製品等)
4. 総投資額 (予定): 320億円 (土地取得および建物・設備 (第一期工事))



再生可能エネルギーを事業化していくという社会的責任にコミットするため、
本年6月のミネベアミツミ定時株主総会で、当該事業を定款に追加

1 カンボジア：太陽光発電事業

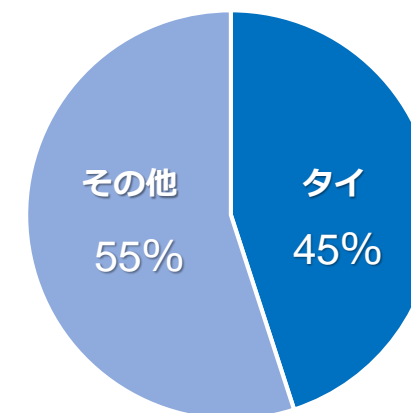
- ・カンボジア鉱業エネルギー省と覚書を締結。
同国政府認定電力事業者SchneiTec社と協働し、太陽光発電事業を
2026年3月期中に操業開始予定（カンボジア プルサット州）。
現地法人の定款も変更予定
- ・カンボジア国内の既存工場、および将来の工場拡張時の使用電力が
100%再生可能エネルギーになる予定。
発電容量：合計約50MW（完成時） / CO₂排出量削減：約48,000t-CO₂/年（完成時）
総投資額（予定）：60億円



SchneiTec社にて設置済みの太陽光発電システム

2 タイ：太陽光発電事業による再エネ拡大を 主力工場で実施予定

- ・タイの有力発電事業者と共同にて発電事業を開始し、当社グループの
主力拠点にクリーンエネルギーの供給を開始する予定。
- ・大規模な再生エネルギーによる電力供給が可能となり、
グループ全体の再生エネルギーカバー率も向上。
発電容量：合計154MW（完成時） / CO₂排出量削減：約95,000t-CO₂/年（完成時）
総投資額（予定）：170億円



グループにおけるタイ工場使用電力割合

24/3期

期末配当 20 円/株 年間 40 円/株

25/3期
予想

年間配当金については、原則として連結配当性向20%程度を目処としておりますが、経営環境を総合的に勘案し、継続して安定的な配当を目指します。



当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

參考資料

① 15年間の軌跡

オーガニックとM&Aの両輪でサステナブルな 事業成長の基盤を構築

単位：百万円

	09/3期	24/3期	倍率	過去最高
売上高	256,163	1,402,127	5.5倍	1,402,127 24/3期 (IFRS)
営業利益	13,406	73,536	5.5倍	97,530 23/3期 (IFRS)
親会社の所有者に帰属する 当期利益	2,441	54,035	22.1倍	73,152 23/3期 (IFRS)
基本的1株当たり 当期利益 (円)	6.18	133.05	21.5倍	178.23 23/3期 (IFRS)

1株当たり
配当金

5.7倍

7円 → 40円
2009年 2024年
3月期 3月期

株価

8.2倍

358円 → 2,951円
2009年 2024年
3月31日 3月31日

時価総額

8.8倍

1,429億円 → 1兆2,603億円
2009年 2024年
3月31日 3月31日

ネット
D/Eレシオ

70%改善

1.0倍 → 0.3倍
2009年 2024年
3月31日 3月31日

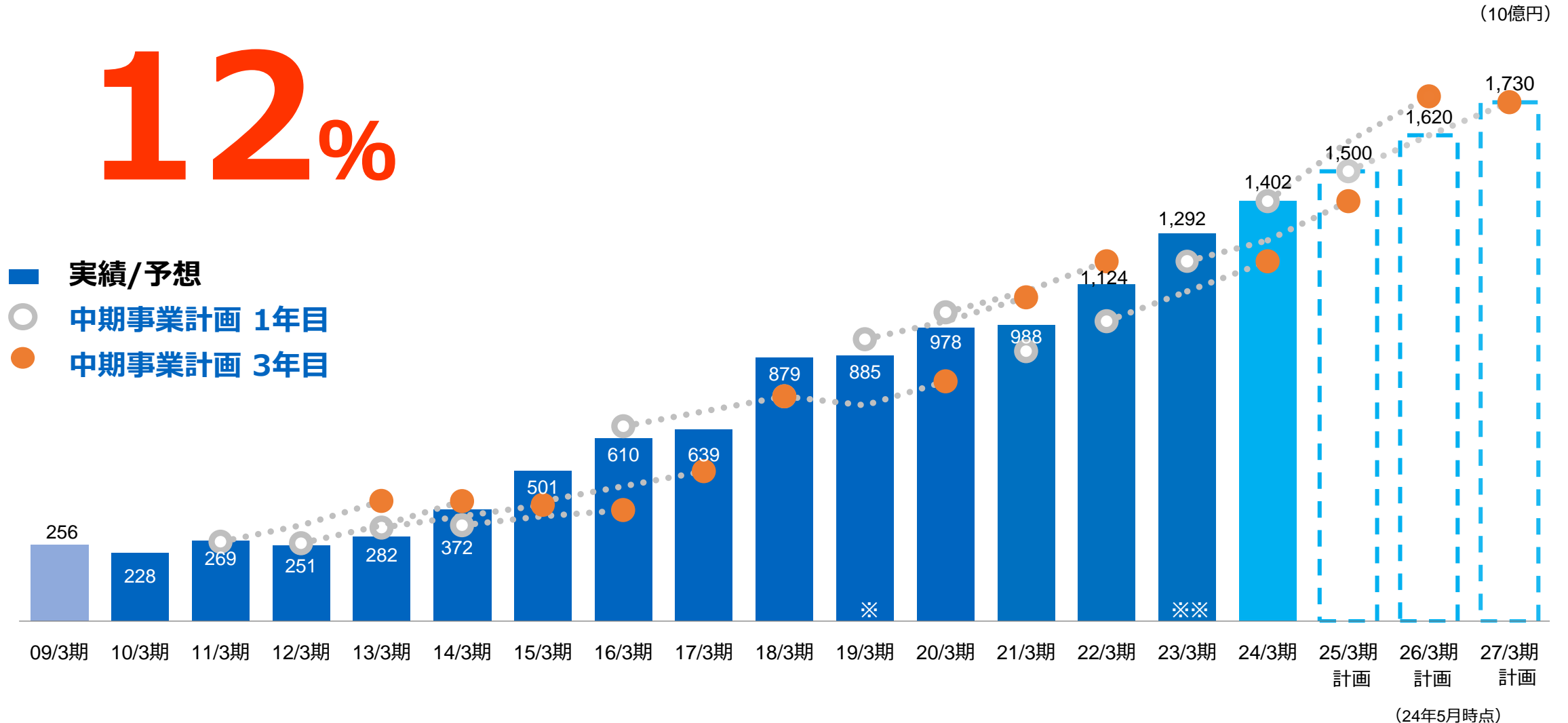
ROE

3.9倍

2.1% → 8.1%
2009年 2024年
3月31日 3月31日

売上高CAGR (09/3期-24/3期)

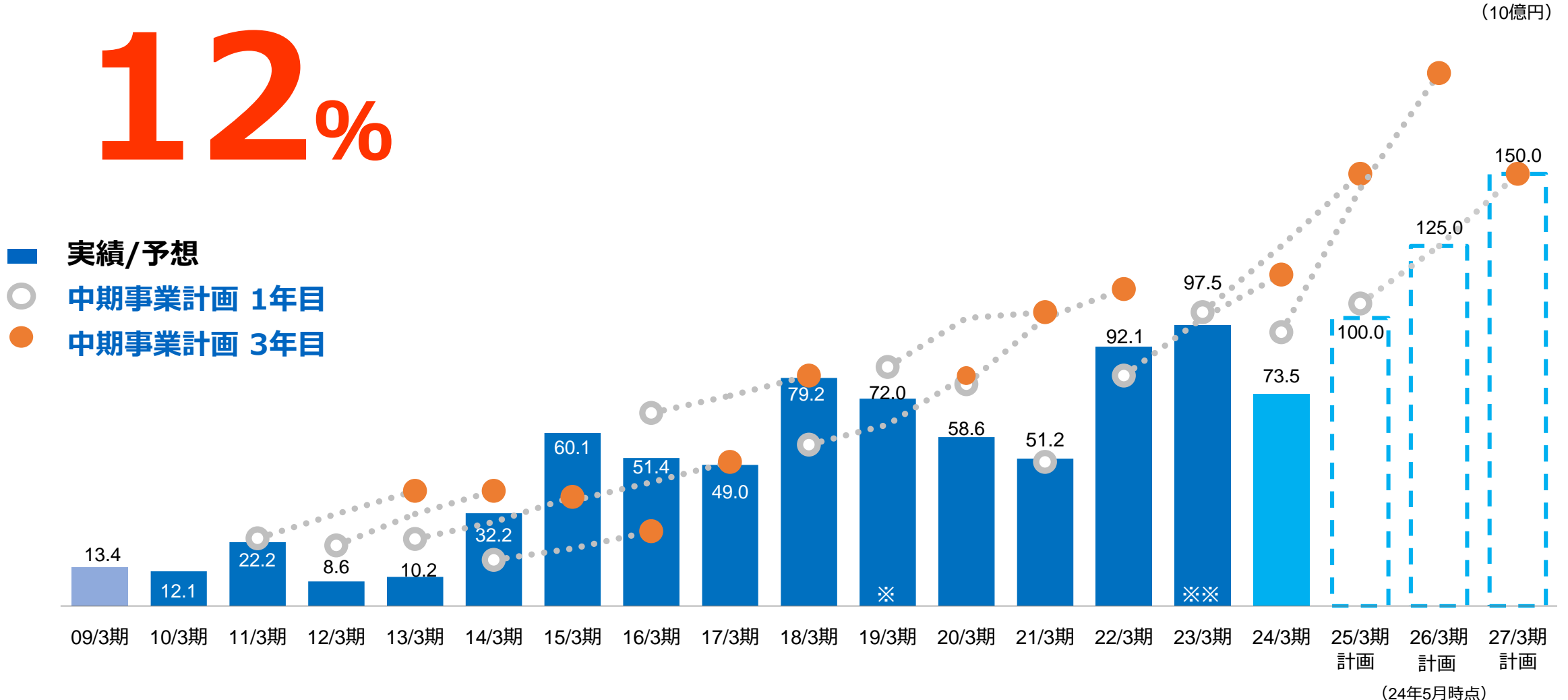
12%



※2016年3月期は経営統合に伴い中期事業計画を発表していないため中期事業計画3年目はblankとしております。
 ※※2020年3月期に発表した中期事業計画は、新型コロナウイルスの影響に伴い、2022年3月期、2023年3月期の数値はイメージとしていたため、中期事業計画3年目はblankとしております。
 ※※※2018年3月期までは日本会計基準、2019年3月期以降はIFRS

営業利益CAGR (09/3期-24/3期)

12%



※2016年3月期は経営統合に伴い中期事業計画を公表していないため中期事業計画3年目はblankとしております。
 ※※2020年3月期に発表した中期事業計画は、新型コロナウイルスの影響に伴い、2022年3月期、2023年3月期の数値はイメージとしていたため、中期事業計画3年目はblankとしております。
 ※※※2018年3月期までは日本会計基準、2019年3月期以降はIFRS

ミネベアミツミのM&A大原則

1 既存ビジネス強化 and/or 相合が期待できるもの

2 適正価格の徹底（割高なものを買わない）

15年間
M&A実績・見込

27件 うち、統合済み 26件

統合済み26件の
企業価値の累計額

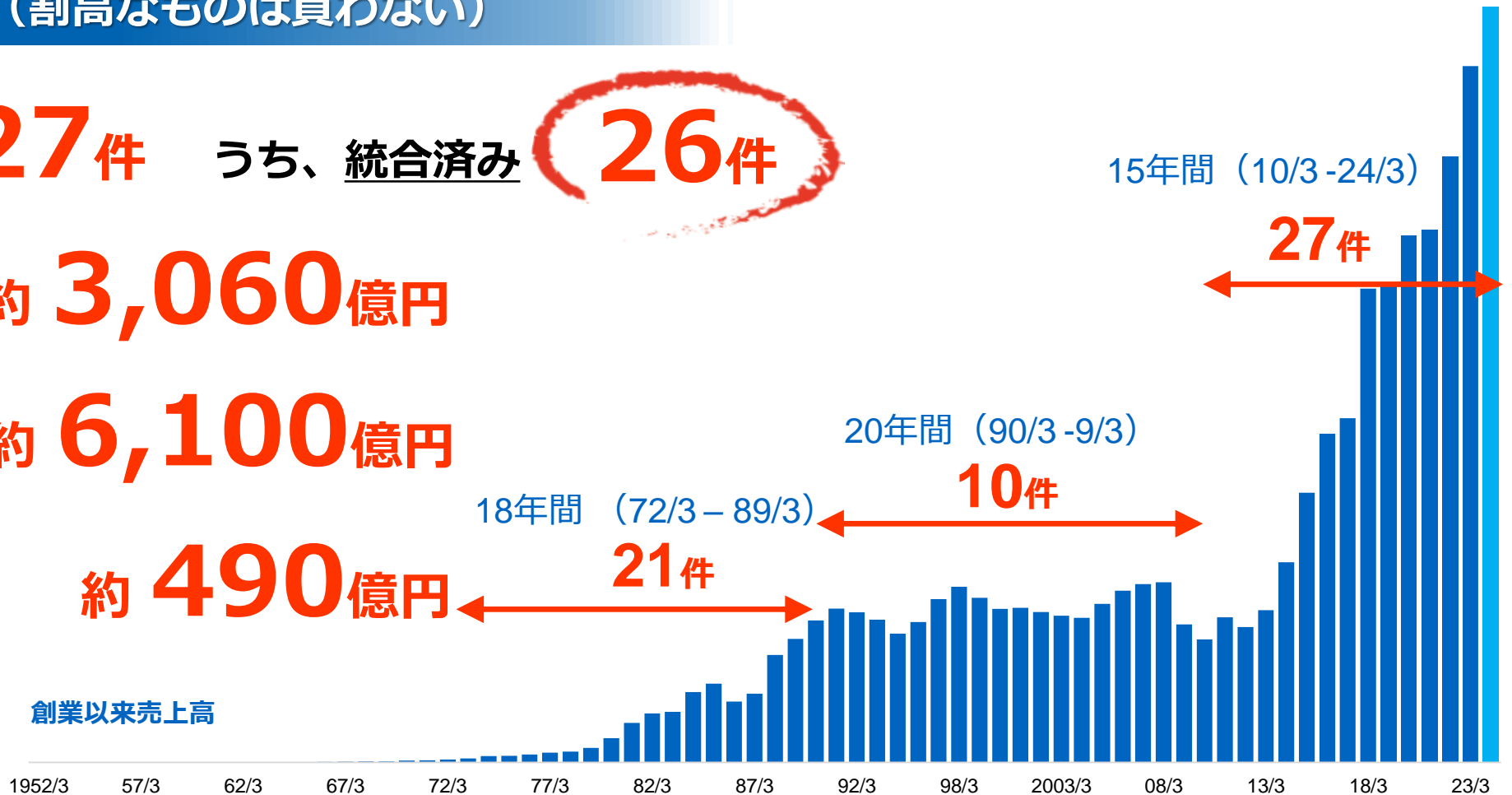
約 3,060億円

統合済み25件（MPSD除く）の
売上高合計（統合時点）

約 6,100億円

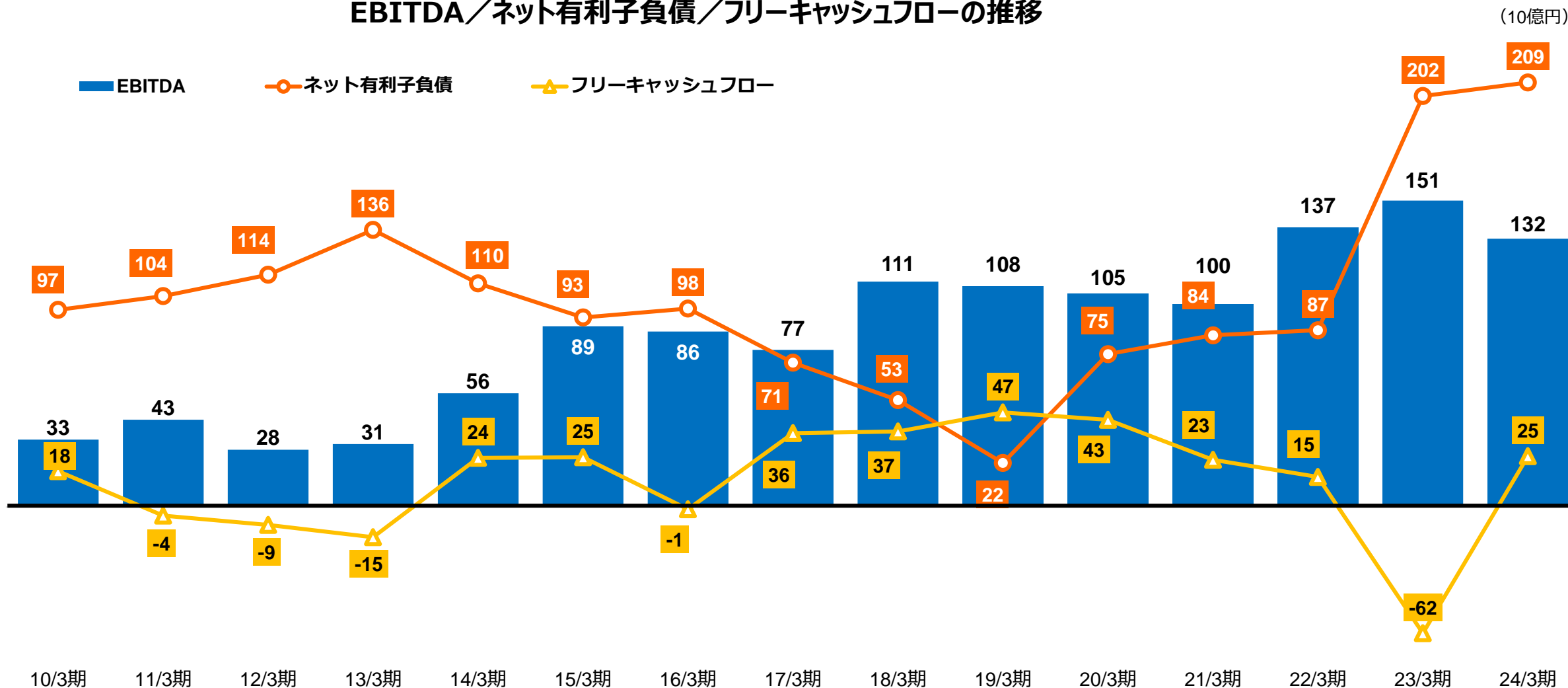
統合済み25件（MPSD除く）の
営業利益合計（24年3月期）

約 490億円



高収益に裏付けられたキャッシュ創出力

EBITDA／ネット有利子負債／フリーキャッシュフローの推移

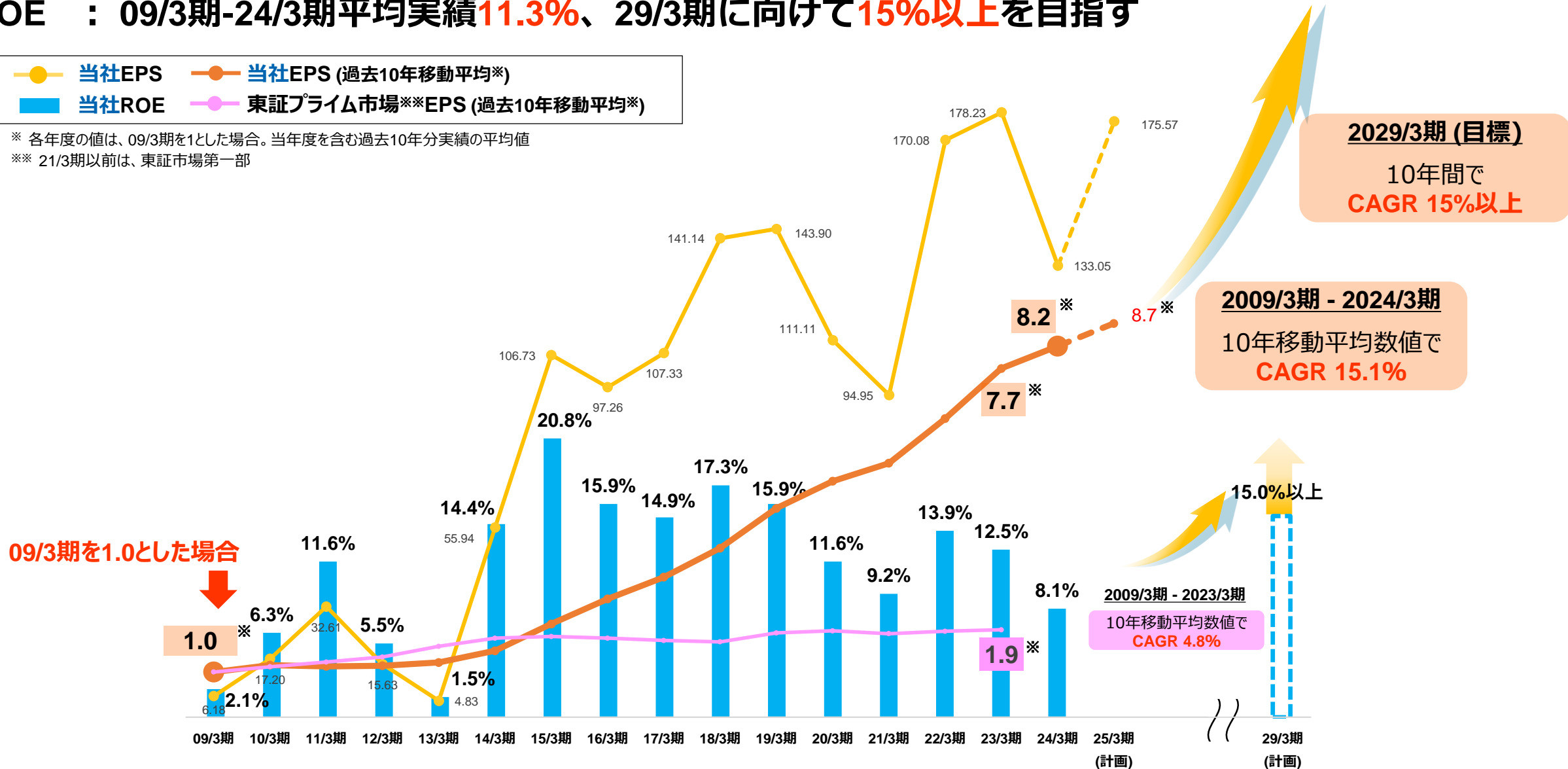


EPS成長率及びROE

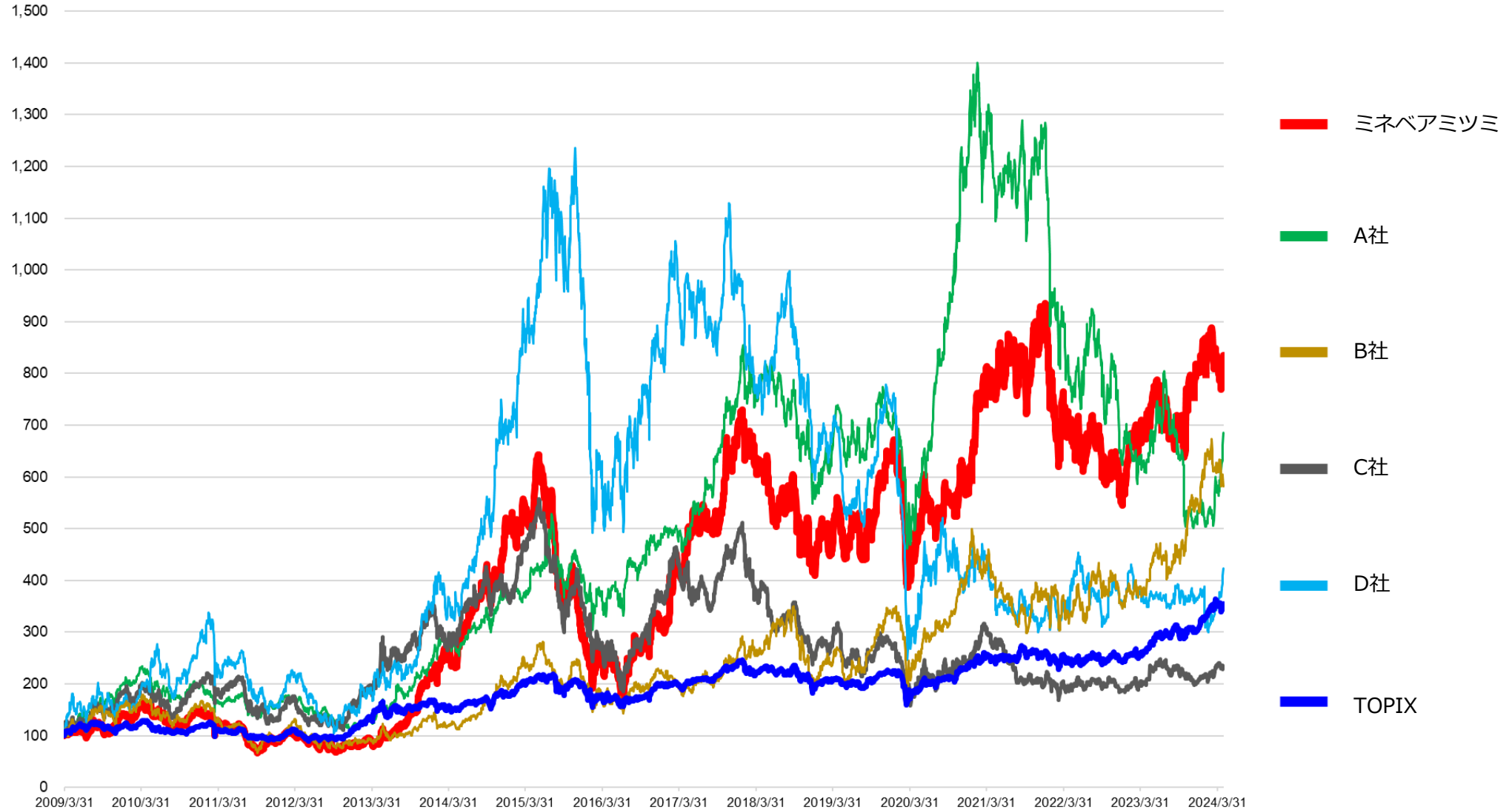
EPS : 09/3期-24/3期はCAGR15.1%、29/3期に向けてCAGR15%以上を目指す
 ROE : 09/3期-24/3期平均実績11.3%、29/3期に向けて15%以上を目指す

(円) ● 当社EPS ● 当社EPS (過去10年移動平均*)
 ■ 当社ROE ● 東証プライム市場**EPS (過去10年移動平均*)

* 各年度の値は、09/3期を1とした場合。当年度を含む過去10年分実績の平均値
 ** 21/3期以前は、東証市場第一部


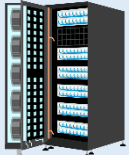
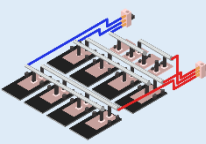
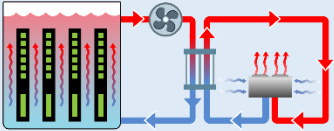


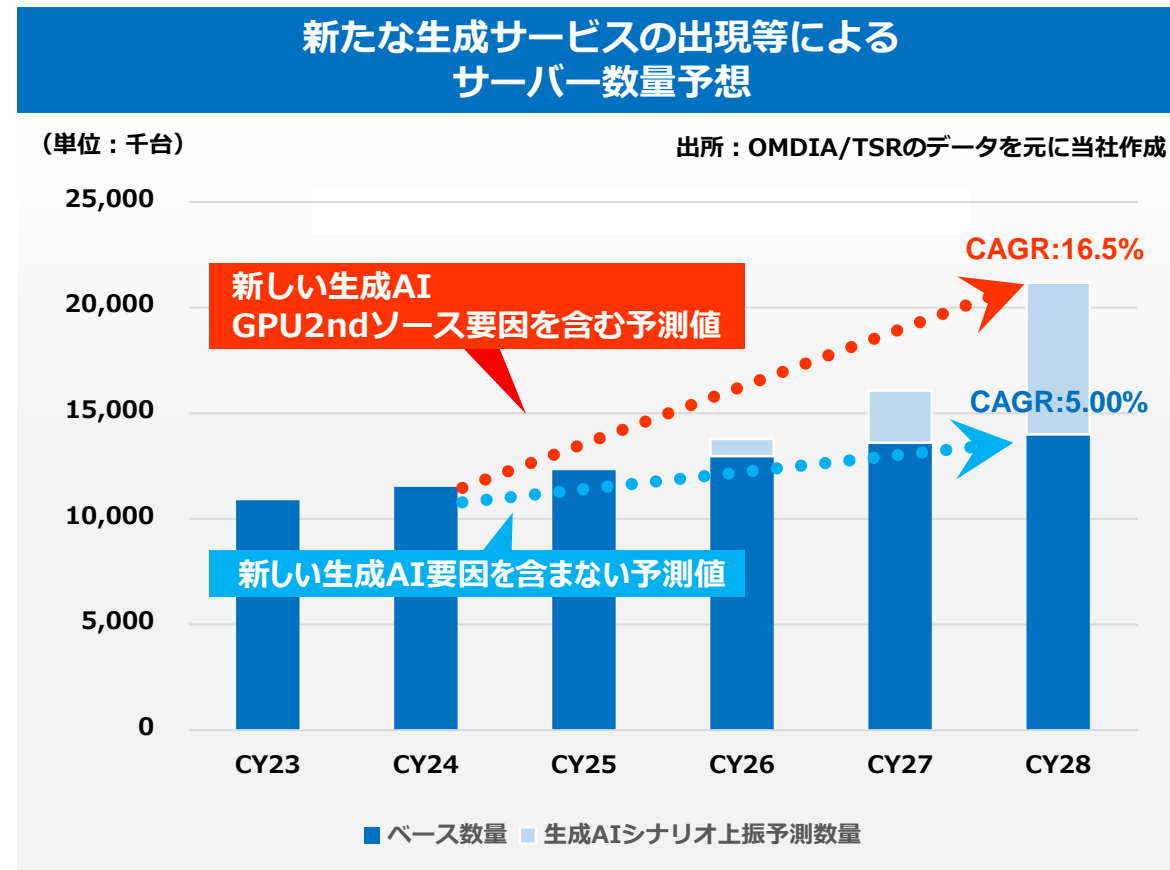
2009年3月31日を100とした場合の株価騰落率



② データセンター向け冷却方式の違いによる当社への影響

- サーバーの冷却方式に変更があったとしても、ファンモーターは引き続き使用
 - ➔ 逆にファンモーターの使用個数が増える方式もあり
- 将来的にデータの拡大は続くと予想。データストレージ用サーバーは増加する
 - ➔ AIの用途は言語➔画像➔映像に拡大。自動運転技術の発達、5Gの活用も見込まれる

冷却方式		ファンモーター使用
空冷		○
液冷	① リアドア方式 	○ +大型ファン
	② コールドプレート ・ Liquid to Air(LTA) ・ Liquid to Liquid 	○ +大型ファン (LTAのみ)
	③ 液浸方式 	△ (攪拌用)

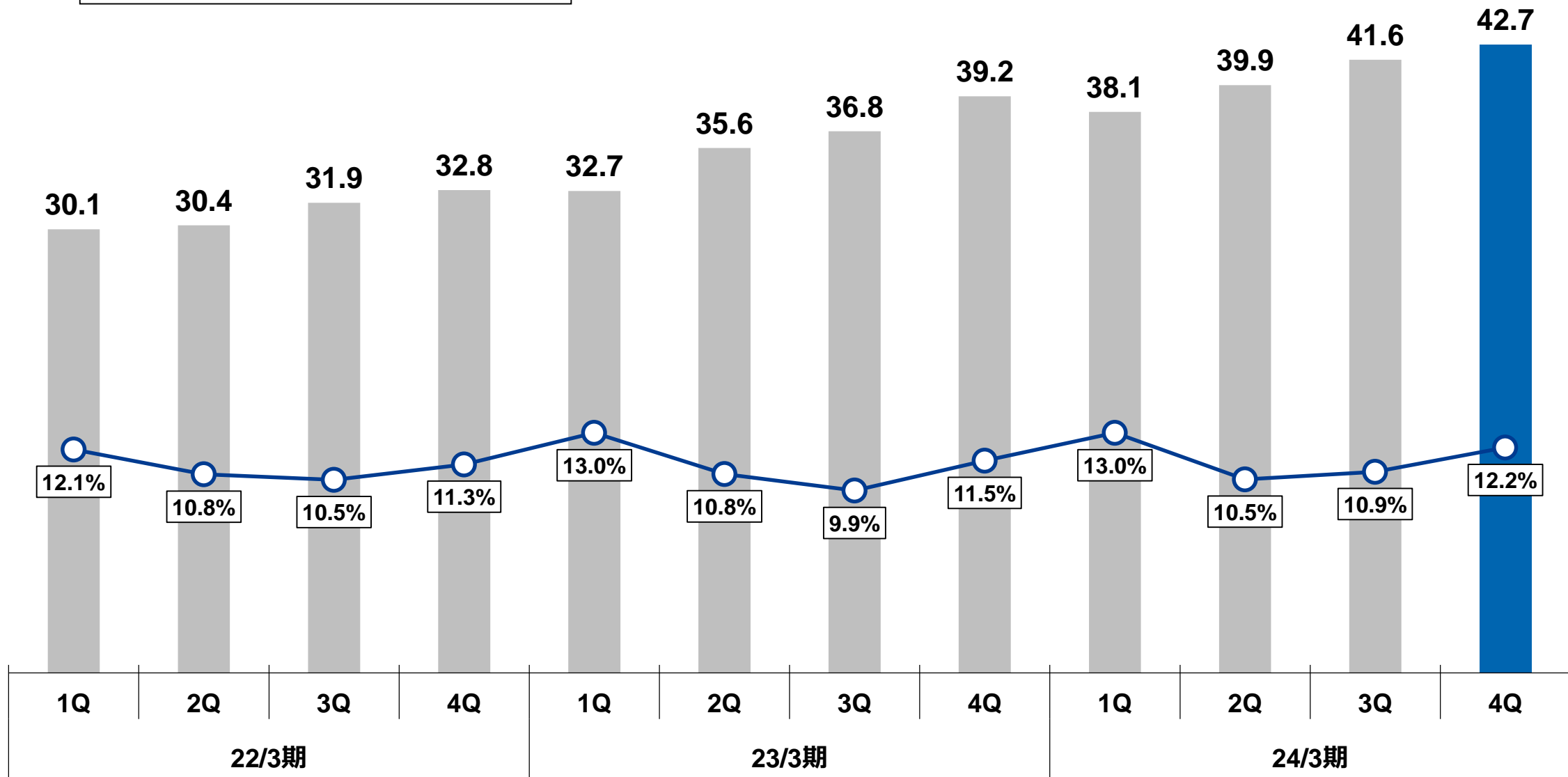


③ 財務数値

販管費

(10億円)

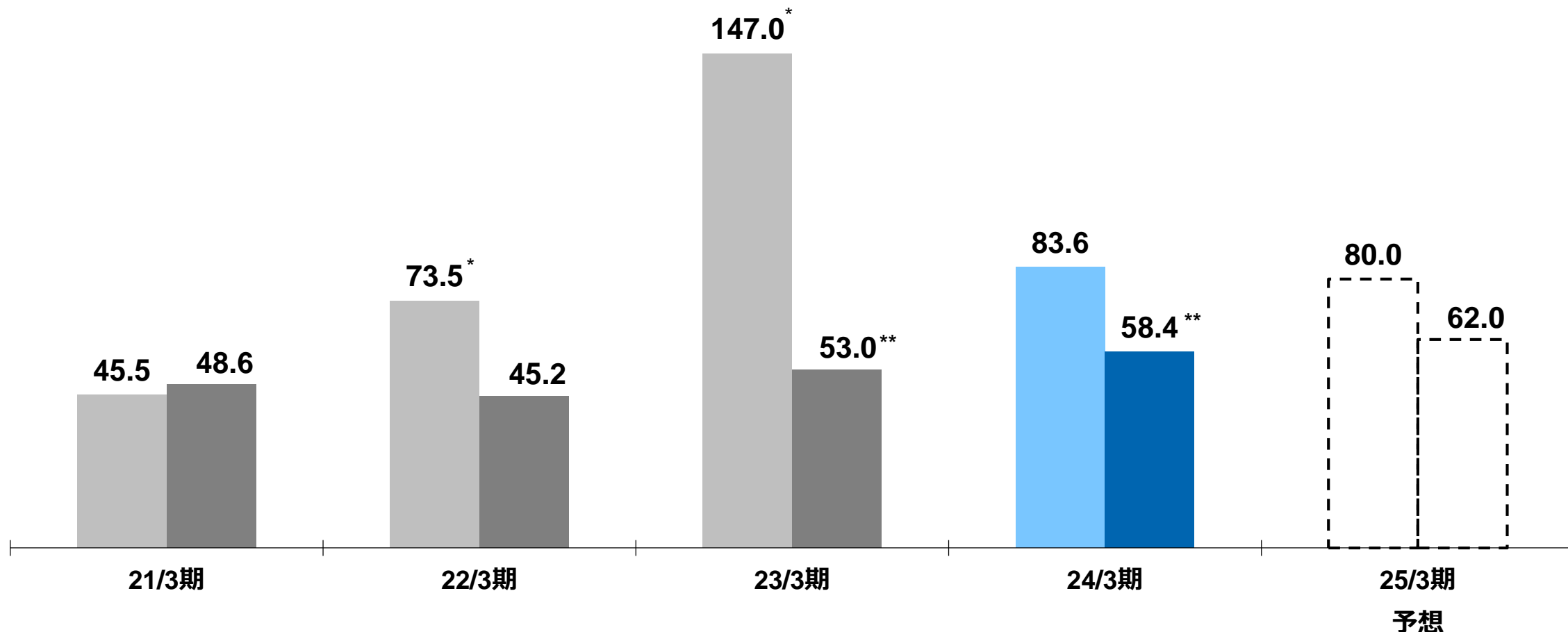
■ 販管費 ○ 売上高販管費比率



設備投資額・減価償却費

(10億円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費



*22/3期、23/3期の設備投資額には、新本部ビル取得費用が含まれています。

**本多通信工業・ミネベアコネクスト・ミネベア アクセスソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の数値を遡及修正。

ROIC (投下資本利益率)

ミネベアミツミ版
ROIC

$$\text{ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益+特別損益)} \times (1 - \text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形+売掛金+棚卸資産+固定資産 - 支払手形+買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出

